

長 薬 同 窓 会 報

Alumni Association

School of Pharmaceutical Sciences

Nagasaki University

第 55 号 (2015年)

長薬創立125周年記念行事特集

目 次

長崎大学薬学部創立125周年記念行事	巻頭
同窓会長挨拶……………山中 國暉（昭43）	1
薬学部長挨拶……………黒田 直敬	2
平成27年度長薬同窓会定期総会・講演会・懇親会	3
平成28年度長薬同窓会定期総会のご案内	4
支部だより……………	5
関東支部，近畿支部，広島支部，北九州支部，福岡支部浦陵会，大分支部，熊本支部，佐賀支部若楠会， 長崎県北支部，長崎県央支部，長崎支部ぐびろ会	
クラス会および近況だより……………	17
服部俊明（昭28），山本 勲（昭30），富安一夫（昭34），桑山良照（昭35），白松一良（昭36） 左利龍彦（昭38），江藤好信（昭40），竹尾禎二（昭42），森崎孝幸（昭45），山田有一（昭47） 渡部クリ子（昭48），昭49卒同窓会世話人一同，梶村 博（昭50），北村良二（昭52），伊藤 潔（昭59） 山本 稔（平2），宮城 翼（学部3年），加藤直也（学部3年），松尾洋介（平15），宮元敬天（平20）	
クラブOB会だより……………	41
野球部，バスケットボール部，硬式庭球部	
庶務報告……………	45
長薬同窓会 支部長会議……………	46
長薬同窓会会則変更……………	47
物故者氏名……………	47
学内記事……………	48
長薬同窓会役員名簿……………	49
長薬同窓会支部一覧……………	50
会計報告（平成26年度決算，監査報告，平成27年度予算）……………	51
同窓会事務局だより	
編集後記	

長崎大学薬学部 創立125周年記念行事

昭和町校舎記念碑除幕式



西田孝洋 薬学副学部長 開会宣言



黒田直敬 薬学部長 挨拶



山中國暉 同窓会長 挨拶



伊豫屋偉夫 長薬同窓会顧問 祝辞



記念碑除幕後の記念写真



参加者集合写真



記念碑



会場の様子

記念式典



記念式典会場



OMURA室内合奏団による弦楽四重奏



記念式典司会 友成由紀様 (平14卒)



会場の様子



片峰 茂 長崎大学長 挨拶



下村 脩 薬学部創薬センター長 挨拶



山中國暉 長薬同窓会長 挨拶



寺門成真 文部科学省高等教育局医学教育課長
祝辞



太田 茂 日本薬学会会頭 祝辞



山本信夫 日本薬剤師会会長 祝辞



佐藤 博 日本病院薬剤師会副会長 祝辞

長薬同窓会支部長会

長薬同窓会として支部長会を開催いたしました。

各支部の近況報告を行っていただき今後の同窓会運営について話し合う場となりました。

支部長会集合写真



〈左から〉 原田均（本部役員）、増田和久（北九州支部）、藤島さとみ（本部役員）、青野拓郎（広島支部）
山本喜一郎（熊本支部）、藤戸博（佐賀支部）、池田光政（福岡支部）、石橋眞（大分支部）
相川康博（長崎県北支部）、今村明久（山口支部）、原正朝（関東支部）、山中國暉（本部役員：会長）
濱田哲也（長崎支部）、七種均（本部役員）、川上茂（本部役員）、佐々木均（本部役員）
岸川直哉（本部役員）、中嶋幹郎（本部役員）、田中秀二（長崎県央支部）、伊豫屋偉夫（本部役員）
【敬称略】



支部長会の様子

総会のほかにも各支部において支部会を開催しております。

お近くの支部会にぜひとも参加していただきますようお願いいたします。

記念祝賀会



目録贈呈
(七種均長薬同窓会副会長)



乾杯
(古川淳名誉教授・長薬同窓会元会長)



校歌斉唱



祝賀会の様子



籠町龍踊保存会による
龍踊・長薬125周年祝舞



万歳三唱
(西脇金一郎長薬同窓会元会長)





ご 挨拶

会 長 山中 國暉 (昭43)

長薬同窓会会員の皆様におかれましては、益々、ご健勝とのこととお慶びを申し上げます。平成24年度より会長を仰せつかって、早いもので4年が経過しようとしています。会長着任以来、「顔の見える同窓会」を目指し、本部役員ならびに多くの会員の皆様のご協力を得て、長薬同窓会の発展と会員皆様の交流促進に努めております。

平成27年度長薬同窓会定期総会は北九州支部(増田和久支部長・昭50)の会員の皆様の御協力を得て、6月13日(土)福岡県北九州市のステーションホテル小倉にて開催しました。出席者は約90名で4月12日(日)の理事会での議決どおり議案は全て了承されました。同窓会の活動は、学年理事へ寄せられた長薬同窓会会員の多様な意見を聞いて運営しなければならないと考えております。しかしながら、学年理事は、現在、各方面で活躍されており、日程が合わず、理事会への参加を見送らざるを得ない方も多いものと聞いております。そこで、各学年理事は卒業年度毎に細かい定義がございますが、2名と決定しました。本誌の庶務報告において、新会則(長薬同窓会会則第7条)をご確認頂ければ幸いです。各学年理事におかれましては、毎年4月に長崎大学薬学部で開催している理事会への出席をお願いします。

さて、長薬同窓会の事業についてご報告致します。今年は原爆復興70周年にあたり、長崎大学では原爆復興70周年記念事業がおこなわれ、長薬同窓会は本事業に対して支援をおこないました。この事業では、献花台設置、忘れな草(複製版)印刷、被曝時計修復、原子爆弾救護報告書修復、記念誌制作、写真展示などがおこなわれました。また、8月2日(日)に長崎市坂本町のグピロが丘下防空壕跡の原爆慰霊碑周辺の清掃、8月9日(日)医学部主催の原爆犠牲者

慰霊祭への参加、10月1日(木)1年生への白衣授与式、11月15日(日)小野島校舎跡記念碑の清掃、11月21、22日の薬学祭での学生に対する補助をおこないました。

皆様ご承知のとおり、今年は、本学の前身である第五高等学校医学部薬学科が設立されて、125周年の節目を迎えました。黒田学部長より提案された長薬創立125周年記念事業をサポートするため、長薬同窓会役員・支部長を中心とした長薬創立125周年記念事業後援会組織を立ち上げました。記念事業は、(1)長薬創立125周年記念誌の発行、(2)長薬昭和町校舎記念碑の建立、(3)学生及び若手教員の教育研究助成の充実の3つの記念事業を柱とするものです。この長薬創立125周年記念事業を実施していくにあたり、同窓会会員の皆様に趣旨をご説明し、寄付をお願いしたところ、多くの会員の皆様よりご賛同を得ることができましたこと、この場を借りて、心より厚く御礼申し上げます。本当にありがとうございます。11月7日(土)には、下村 脩先生や多数の来賓の皆様方を迎えて、現在の長崎大学教育学部附属小学校正門入り口横に建立された昭和町校舎記念碑の除幕式、それに引き続きANAクラウンプラザホテル長崎グラバーヒルで長薬創立125周年記念式典ならびに記念祝賀会が盛大に開催されましたことをご報告致します。本長薬同窓会報では、本記念事業の様子をカラー写真で伝えております。

来年、平成28年度の定期総会は福岡支部浦陵会(池田光政会長・昭57)のお世話にて福岡市で6月11日(土)に開催されます。併せてクラス会等を企画して下さい。

最後に、この同窓会を核として、長薬同窓生が益々の活躍と発展により社会へ貢献していくことを祈念して、ご挨拶とさせていただきます。



長薬同窓会の皆様へ

長崎大学薬学部長 黒田 直敬

長薬同窓会の皆様におかれましては益々御健勝のこととお慶び申し上げます。また、常日頃より同窓会の皆様方には、長崎大学薬学部にご支援いただいておりますこと厚く御礼申し上げます。

このたび、中山守雄の後任として平成27年4月1日より薬学部長に就任いたしました。ここに謹んでご挨拶申し上げます。平成11年（1991年）4月に長崎大学薬学部の助手として赴任し、以来、薬品分析化学分野を中心とした教育・研究に携わってまいりましたが、国立大学法人を取り巻く環境が一段と厳しさを増す折、歴史ある本学部の学部長を仰せつかりましたことに責務の重大さを痛感いたしております。何とぞ、前任者同様ご指導とご支援のほどお願い申し上げます。

今年度は記念すべき長薬創立125周年にあたりますことから、山中國暉同窓会会長をはじめとする記念事業後援会組織の皆様のご全面的なご支援もいただきまして、記念式典、祝賀会や記念誌の発行、昭和町校舎跡地への記念碑の建立などを記念事業として計画しております。この同窓会報が皆様のお手元に届くのはこれらの記念事業後と存じますが、長薬創立125周年の一連の記念事業が成功裏に終わり、次の発展につながることを祈念しております。

さて、平成18年に始まりました薬学6年制が10年目を迎える本年度から、改訂された薬学教育モデル・コアカリキュラムに基づく新しい教育が始まりました。これは6年制薬学教育を対象としたものですが、このカリキュラムの最大の特徴は、薬剤師として求められる基本的な10の資質を設定し、この修得を意識した教育編成となったことです。また、長崎大学薬学部の教育研究に関しましては、本年度から医療薬学系の4研究室（薬物治療学、医薬品情報学、薬剤学、実践薬学）が坂本キャンパス医歯薬学総合研究棟（旧歯学部本館）に移動いたしました。従いまして、現在の薬学部は分離キャンパスの様相を呈しておりますが、今後、学部として一体感をもって薬学の教育・研究を強力に推進するために、全ての研究室の坂本地区への移転を大学に働きかけていく所存です。

学部に関わる行事としましては、今年度も長薬同窓会の皆様方のご厚意により、在校生へ白衣を贈呈していただきましたので、この10月に1年生を対象とした白衣授与式を開催いたしました。白衣には榭（カシワ）と月桂樹の葉でデザインされた校章がプリントされており、在校生は長大薬学部学生としての誇りと自覚をもって、薬学基礎実習や実務実習に臨むことができます。改めて白

衣を贈呈くださいました長薬同窓会に厚く御礼申し上げます。贈呈式の様子は、長薬同窓会のホームページにて紹介しておりますので、是非、ご覧になってください。

平成26年度の薬剤師国家試験結果に関しまして少し紹介させていただきますと、新卒者36名が受験し、28名が合格いたしました。この合格率は77.8%で全国平均を5%上回る成績でした。また、既卒者も16名の受験者に対して11名が合格（68.8%）と、全国平均（54.5%）を10%以上上回る合格率となりました。近年、国家試験の難度が増し続けておりますが、今後は、学業成績に対応したきめ細やかな指導を入学時から行うことにより、さらなる合格率の向上を目指していきたいと考えております。

就職状況につきましては、薬学科（6年制）の卒業生36名のうち、今年は主なところで、18名が病院薬剤部に、8名が保険調剤薬局、4名が製薬関連企業・官公庁に就職いたしました。一方、薬科学科（4年制）では、43名中37名が他大学も含めた大学院博士前期課程に進学いたしました。

教員の人事に関しましては、本学部の薬剤師教育に関して、みなし専任教員としてご協力をいただいております手嶋無限先生に4月1日より薬学部医療薬学系准教授（実務家教員）が委嘱されました。また同日、大山要准教授が薬品分析化学研究室から実践薬学研究室に異動されました。7月1日には長崎大学創薬拠点の田中義正准教授と水田賢志助教が、同じ医歯薬学総合研究科の新興感染症病態制御学系専攻 感染免疫学講座に異動されるとともに、出口雄一准教授が新たに創薬拠点に採用されました。一方、7月1日よりナイジェリア国籍の Omotuyi Olaposi Idowu 先生が創薬拠点の助教に採用されたのち、9月下旬には母国へ帰国しましたが、11月1日からは客員准教授として本学の研究支援にあたっておられます。

以上、長崎大学薬学部の現況を簡単に紹介させていただきましたが、薬科学科の学生に関しまして、薬剤師国家試験受験資格が得られるという暫定制度が平成29年度の入学生を最後に終了することになっております。長崎大学薬学部としましても、制度廃止後の教育体制を早急に考えていく必要が生じております。これらの諸問題の解決には鋭意努力していく所存ですが、同窓会の皆様には、薬学部のさらなる発展に向けて、これまでと変わらぬご支援・ご高配を賜りますようお願い申し上げます。

末筆になりましたが、長薬同窓会の益々の御発展をお祈り申し上げます。

平成27年度長薬同窓会 定期総会・講演会・懇親会

本年度は、北九州支部（増田和久支部長）のお世話で、平成27年6月13日（土）にステーションホテル小倉で開催されました。86名の同窓会会員のご参加により、無事終了いたしました。総会に引き続き手嶋無限先生（院平

15）のご講演がありました。また、懇親会の余興では名物のバナナのたたき売りの披露もあり、大変盛大な会となりました。その模様を一部ご紹介いたします。北九州支部だよりも併せてご覧ください。



総会



総会



講演会



講演会



北九州支部長挨拶



薬学部長挨拶



懇親会



懇親会



懇親会



懇親会



懇親会



懇親会

※写真はホームページでも紹介しております。是非ご覧ください。

平成28年度長薬同窓会定期総会のご案内

日時 平成28年6月11日(土) 17:00～総会 18:00～懇親会(予定)

場所 ソラリア西鉄ホテル

福岡市中央区天神2-2-43 Tel 092-752-5555

万障お繰り合わせの上、多数ご参加くださいますようお願い申し上げます。

支部だより

●● 関東支部 ●●

支部長 原 正朝（昭60）

関東支部総会を10月18日（日）曜日の午後、「東邦大学薬学部 習志野キャンパス 大講義室」で開催しました。昨年の総会で、昭和60年卒の小職が支部長、昭和62年平成元年院卒の加藤恵介さんが幹事長に就任して初めての総会です。今年は平成世代の卒業生の参加者を増加させることを目標として準備を進めてきました。会場は加藤幹事長が薬化学教室の教授を務める東邦大学習志野キャンパスで行うことにしました。加藤幹事長の尽力により、総会会場として大講義室を確保していただき、総会開始前に薬学部の見学ツアーを行いました。薬学部見学ツアーには、旧4年制課程を卒業した15人程が参加しました。薬学部6年制により、薬学部の教育内容が変わり、薬学部の設備も大きく変化していることを痛感した学内見学でした。教室の中には、薬局の調剤棚、分包機、注射剤混注のためのクリーンベンチ、抗癌剤の注射剤混注のための無菌室、安全キャビネットが設置されており、実際の薬局窓口でのロールプレイ、病院のベッドサイドでのロールプレイが教育の中で行われているとのことでした。フィジカルアセスメント技術の向上を目的としたフィジカルアセスメントモデル“Physiko”も設置しており、旧4年制の卒業生には、隔世の感がありました。



今年の総会には、昭和の卒業生21人、平成の卒業生15人、計36人が出席しました。昨年は、昭和卒業24人、平成卒業7人の計31人でしたので、平成卒業生が、7人から15人と倍増し、平成世代の卒業生を増加させるという目標は、ある程度は達成できたのではないのでしょうか。

総会に先立ち、昭和57年卒業の東京理科大学薬学部製剤学教室 山下親正教授に、「企業／大学における創薬・創剤研究」というテーマで講演していただきました。山下先生は、大塚製薬製剤研究所に入社後、心不全治療薬アーキンZ、中枢性鎮痛薬レベタン坐剤、C型肝炎治療薬O I F注射薬の製剤設計や、喘息治療薬メプチン粉末吸入剤のデバイス導入、新規粉末吸入システム Otsuka Dry Powder Inhalation (ODPI) Systemの開発



平成27年10月18日 於 東邦大学薬学部大講義室

に携われました。これらの薬は、私も調剤の現場で直接手にした薬であり、この薬が長薬の先輩の製剤開発により製品化されていたことを知り、誇らしい気持ちを覚えました。ODPI Systemは、従来の製造工程で微粒子化させた製剤を患者に吸入させるという既成概念を捨てて、患者の視点で、吸入時に微粒化させるという逆転の発想でできた製剤であるという点が印象的でした。

総会では、昭和30年卒の森田さんによる校歌斉唱、物故者への黙祷の後、川上先生（平7）より薬学部の近況報告、125周年事業の進捗報告などがありました。加藤幹事長の司会進行より、前年度の会計報告、活動報告、今年度の事業計画が承認されました。今年度は、125周年記念事業に協力するため、関東支部の会計から10万円の寄付金を拠出することが承認されました。

その後、会場を大学生協の食堂に移し懇親会を行いました。懇親会では、年代ごとに全員が近況報告をして懇親を深めることができました。懇親会の締めめの挨拶は、今年の卒業生である森蘭文恵さん（平27）にお願いし、来年の再会を期して解散しました。

参加者

来賓	長薬同窓会編集幹事	川上 茂（平7）
黒岩 幸雄（昭30）		森田 和之（昭30）
松尾 一誠（昭35）		白松 一良（昭36）
樋口 宗司（昭42）		谷 覺（昭42）
藤本 正治（昭42）		渡辺 熙（昭42）
西村 正邦（昭44）		多田 和子（昭48）
梶村 博（昭50）		藤竿伊知郎（昭50）
山下 親正（昭57）		濱本 知之（昭57）
原 正朝（昭60）		高橋 薫（昭60）
浅沼 章宗（昭60）		加藤 恵介（昭62）
武内 富紀（昭62）		黒田けいこ（昭62）
下田加奈子（昭62）		森尾 初美（平1）
緒方孝一郎（平1）		森川 慎也（平2）
松下 正行（平2）		松下 陽子（平3）
佐川 尚子（平7）		宇佐 昌芳（平7）
石橋 紀久（平11）		高橋 圭介（平13）
鈴木 秀明（平14）		平井 聖人（平19）
服部 芳野（平23）		木原 康孝（平25）
森蘭 文恵（平27）		山崎裕太郎（平27）

●● 近畿支部 ●●

支部長 梶野 繁（昭42）

本年度の特別講演会および長薬同窓会近畿支部総会・懇親会は、平成27年10月17日（土）の午後、大阪梅田・阪急ターミナルスクエア17で開催いたしました。長年、総会会場として利用していました弥生会館（大阪梅

田）が建て替えのため、今年は会場を変更せざるを得ませんでした。これも時代の変遷でしょうか。支部会員は昨年同様約30名の方が参加されました。

特別講演では、薬剤学教室で教鞭をとられていた、小西良士先生（長薬同窓会特別会員、帝国製薬(株)技術顧問）をお招きして「わたしの長薬時代とその後」とのタイトルでのお話を聞かせていただきました。座長は高田充隆（近畿大学薬学教授、昭52）さんをお願いしました。小西先生は昭和58年まで、長崎大学にお勤めでしたが、その



平成27年10月17日 於 阪急ターミナルスクエア17

後、当時としては珍しかった、大学から企業に転身された先生で、その辺りの秘話とその後の製薬企業人として国内外での業績と、また薬剤学教室での教え子のいろいろな方面での活躍の様子など、本当に幅広く、しかも分かりやすく楽しいお話を頂戴いたしました。

近畿支部総会では議事に入る前に、物故者に対する黙とう、支部長挨拶、校歌斉唱のあと、同窓会本部を代表してご出席いただいた長葉同窓会副会長の七種均先生(昭56)に、長葉同窓会のこの1年の活動や薬学部の近況

等についてお話をいただきました。

懇親会は森藤由香(昭59)さんの司会のもと、山戸寿(昭30)先輩に今年も乾杯のご発声をいただきました。ビュッフェ形式のお料理を楽しみながら和やかな雰囲気での時間のたつのも忘れてみんな会話とスピーチに興じました。最後は参加者最年少の林田久(昭62)さんの万歳三唱、そしてクローズとなりました。

本年も、支部会員の親睦と交流を図るため近畿支部会報第20号の発行を予定しています。

● ● 広島支部 ● ●

支部長 青野 拓郎(昭52)

長葉広島支部同窓会を平成27年10月18日(日)にホテルグランピア広島で開催しました。広島駅から外にでることなく歩いて来れる便利な会場です。

今年は、長葉同窓会庶務幹事の岸川直哉先生をお招きしたの開催となりました。曾根正勝先生(昭46)、岸川映子先生(昭60)をはじめいつも参加して頂いている方々が他の行事や体調不良などで欠席され15名での会となりました。

例年通り橋口信彦先生(昭36)の司会のもと始まりました。支部長挨拶の後、工藤重子先生(昭32)の乾杯挨拶の後、会食懇談となりました。

歓談中に来賓の岸川直哉先生の御挨拶があり、最近の長葉の様子等のお話をお聞きすることができました。その後、出席者から色々な質問がでしたが、懇切丁寧に答えて頂きました。

近況報告では、今年はクラス会がいくつもの学年で開催されたようで、そのことも紹介されました。また、いつもの年と同様に旅行の話、退職した話、現在の仕事の

話やご自身やご家族の病気の話、ご家族の介護の話等、様々な出来事の話をお聞きました。

御夫婦で毎年交互に出席して頂いている村上家からは、当初奥様の郁子先生(昭43)が出席予定でしたが当日急遽剛先生(昭43)へ変更になりました。変更理由をお聞きして郁子先生らしいと思いました。

瀧口益史先生(院平5)から広島国際大学で実施している専門職連携(IPW)・専門職連携教育(IPE)のことをお聞きし、学生の時にチーム医療の即戦力としての教育が行われていることを初めて知りました。

近況報告が終わったところで写真撮影に移り校歌を斉唱し、最後に左利龍彦先生(昭38)の閉会の辞及び乾杯で閉会・解散となりました。

出席者

工藤 重子(昭32)	橋口 信彦(昭36)
左利 龍彦(昭38)	村上 剛(昭43)
品川龍太郎(昭44)	森崎 孝幸(昭45)
安田 宣子(昭47)	古屋 敏子(昭47)
中川 博史(昭50)	青野 拓郎(昭52)
渡邊真由美(昭52)	後河内厚行(昭53)
瀧口 益史(院平5)	手島 賢二(平8)
来賓 長葉同窓会庶務幹事	岸川 直哉(平10)



平成27年10月18日 於 ホテルグランピア広島

●● 北九州支部 ●●

支部長 増田 和久 (昭50)

北九州支部では今年度の同窓会定期総会の当番を務めさせていただきました。6月13日(土)にステーションホテル小倉にて開催しましたが、全国から90名近くと同窓生各位にご出席いただき盛会裏に終えることができました。ご出席いただいた皆様には衷心よりお礼申し上げます。定期総会の出席者の確保に毎年苦勞しているとお聞きする中、地方での開催にしてはまずまずの人数だったと思うところですが、実は裏話がありまして…

開催2か月前の4月中旬から支部世話人9名で手分けして、北九州支部を中心に電話作戦を実施したにも拘らず、5月末時点での申込者は50数名と前回(平成18年)の80名に遠く及ばない状況でした。そこに恩師の古川淳先生(昭25;元薬品合成化学教室教授;元薬学部長;長崎大学名誉教授)から、「膝が悪く今年の総会は遠慮しようと思っていたが、ステーションホテル小倉ならアクセスが良いので行こうと思う。ついては、〇〇君や△△君は出席するようになってきているのかね?」との電話がありました。その時点では二人とも返事は無かったのですが6月4日の締め切りまでに日にちもあったので「たぶん出席されると思いますか?」とお答えしました。

50名ばかりの出席では開催支部長として面目が立たないと思い悩んでいたところでしたので、ここは1つ古川先生の力をお借りしようと思い、二次会を「古川先生を囲む会」を兼ねる会にしてはと考えました。それからの数日間、私の知る薬品合成化学教室の同門に「恩師は膝が悪いのを押して定期総会に出席される。二次会は古川先生を囲む会を兼ねるので是非出席してください!」と

電話を掛け捲りました。その結果、熊本からの〇〇先輩や延岡からの△△君も含め、10数名の同門が新たに参加してくれることになりました。最終的には、前回は上回る90名近くの参加が得られたわけです。事務局の方には、締め切り後の申し込みが多くご迷惑をおかけしました。

当日は、定期総会と記念講演会は滞りなく行われ、引き続き懇親会に移りました。卒業年度ごとに集まったテーブルでは、大学時代を懐かしんだりお互いの近況報告をされたりと楽しい時間が過ぎていきました。また、北九州支部最高齢者の塩飽健而様(昭16)から、自分は病床にあって出席できないが盛会を祈りますとの事で、焼酎の「なかむら」と日本酒の「瀬祭」の差し入れがありました。大先輩、有難うございました。

そして今年度の目玉、門司港名物「バナナのたたき売り」の出番です。明治時代、国際貿易港として栄えた門司港には台湾から大量のバナナが陸揚げされていました。輸送中に蒸れたバナナを独特の口上で売りさばっていたのが「バナナのたたき売り」の始まりです。懇親会場でも売り手の絶妙な口上に乗せられて多くの方がバナナを購入されていました。最後に、薬学6年制移行後の第2期生となる葛島美季さん(平25)が万歳三唱を行い、懇親会は締めくくられました。



平成27年6月13日 於 ステーションホテル小倉

その後、同ホテル1階のバーに会場を移して二次会兼「古川先生を囲む会」が開催されましたが総会出席者の過半数を上回る50数名の参加が得られ、古川先生を囲んで熱く語らっていただきました。一応、薬品合成化学教室出身者の席とその他の教室出身者の席を分けてはいましたが、先生はビールを片手にすべての席を回られ親しく語られていました。先生の存在の大きさを改めて知らされました。古川先生、誠に有難うございました。いつまでもお元気でいてください！！

なお、来賓の黒田直敬薬学部長も小学校時代をこの地で過ごされたとのことで、久し振りの小倉を懐かしんでおられた様子で何よりでした。



最後に、今回の定期総会開催に当たりご支援・ご協力をいただいた、山中会長や事務局そして支部世話人の皆様に感謝申し上げます。

●● 福岡支部浦陵会 ●●

会長 池田 光政 (昭57)

平成27年度の長薬同窓会福岡支部浦陵会において、新たに会長になりました昭和57年卒、生薬学教室出身の池田です。現在、福岡県庁に勤めています。よろしくお願ひします。

平成23年度の会報でご紹介しましたように、若い方の参加が増えなかったため、福岡支部浦陵会はしばらく休会とし、お互いの元気を確認する会として継続してきました。このことから、平成24年度から平成26年度までは会長不在で、代表世話人により運営されてきましたが、

このたび、来年、平成28年度の長薬同窓会定期総会・講演会・懇親会が、福岡市で開催されることや、伝統ある会を絶やしてはいけないという皆様方の想いを受け、平成27年度の長薬同窓会福岡支部浦陵会において、新しい会長を選任することとなった次第です。

では、平成27年度の長薬同窓会福岡支部浦陵会の開催状況について報告させていただきます。当日は、中島敏樹 (昭57) さん、松原大 (昭58) さんなど、代表世話人のおかげで、若い方に多数参加していただきました。

本年度は会場を中華料理店 (平和楼) に変更し、会費もできるだけ女性の方の参加が増えるよう、男性と女性と差をつけ、また、21世紀枠として、将来、会を担ってもらう若い方が参加しやすいよう若い世代の会費も併せて設定しました。その成果でしょう、女性、平成卒業の



平成27年9月6日 於 平和楼

参加者が増え、新卒も2名参加してくれました。浦陵会の歴史を刻む先輩方から社会人一年生まで、色んな世代が集まった集合写真をご覧ください。

総会は、金子富美（昭59）さんの司会で、中島敏樹（昭57）代表世話人の挨拶から始まり、来賓として長崎から駆けつけていただきました山中國暉同窓会長からご祝辞と同窓会の周年事業のご紹介がありました。その後、白谷智宣（院平5）さんからの会計報告、中島代表世話人から、新会長の選任の経緯の話がありました。

懇親会では、新会長挨拶に続き、参加者一人ずつから自己紹介と近況報告が行われ、仕事の話、趣味の話…等、会員の皆さんの生き生きとした日々が披露され、各々が再会を祝いました。会話が弾み、ビールや紹興酒などアルコールもすすむ楽しい一時でしたが、最後に来年の長

薬同窓会を盛り上げるべく、浦陵会が一致団結していくことを確認してお開きとなりました。平成27年に卒業された2名の方からは、後日「いろんな話ができ、いろいろ教えていただきありがとうございます。来年も参加します」とのメールをいただきました。このような繋がりを大事にして会を盛り上げて行きたいと考えています。福岡県に住んでいる方、是非、参加してください。

最後になりますが、平成28年度の長薬同窓会定期総会・講演会・懇親会が福岡市の天神で6月11日に開催されます。開催担当地幹事として、しっかり勤めさせていただきます。福岡は、ラーメン、もつ鍋、水炊きなどの料理をはじめ屋台でも有名なグルメの町です、美味しいものを食べに福岡へ是非おいでください。浦陵会一同、多数のご参加をお待ちしています。

●● 大分支部 ●●

岡本 晶子（平2）

平成27年度長薬同窓会大分支部の総会及び新年会が、平成27年1月31日（土）午後6時30分から大分センチュリーホテル（大分市）で開催されました。今回は、来賓として本部から岸川准教授（平10）をお招きしました。岸川先生は、今回が2回目の大分への来県だそうです。また、出席者は例年並みの26名の参加となりました。例

年通り、昭和26年卒の西川先生を筆頭に新年会で会うのを楽しみにしている方や新規入会者の方と、楽しい時間を過ごさせて頂きました。そして、大分支部には177人の登録がある事にびっくりですが、出席者が26名と少なく淋しい気持ちです。もう少し参加していただけないかと…。

総会では、議事に入る前に、物故者の黙祷、記念撮影、支部長あいさつが行われ、その後上ノ段幹事代理（昭50）より収支決算書、会員の異動等の報告があり、次に、支部長から事務局の交代の案が提案され承認されました。

大分支部では、今年から“新しい風を”という事で、大



平成27年1月31日 於 大分センチュリーホテル

分支部事務局が(株)アステムの阿部幹事(昭50)から、アルメイダ病院の陸丸先生(院平15)と河村先生(平18)の2人制として引き継がれました。若者の参加者が特に少ないことから、若い幹事に交代したので来年から若者の参加に期待しています。阿部幹事には、私が大分に帰って来てから24年間、毎年支部会の案内を頂き大変お世話になりました。参加できない年が長く続きましたが、その間に送られてくる案内状を楽しみにしていましたし、研修会場で声をかけてもらうなど長葉の繋がりを感じられ有難く思っていました。本当に40年近く(?)有難うございました。またこの秋には、平成27年度薬事功労者厚生労働大臣表彰の受賞、おめでとうございます。

来賓の岸川先生からは、長葉の最近の話題をスライドにて説明して頂き、中でも、学生に贈られるという白衣は、長葉の自覚と誇りを持てる素晴らしいアイデアで、年代毎に卒業生用の白衣もあればいいのにと羨ましく思いました。また、2月14日に「第2回先導的薬剤師の未来像を考えるシンポジウム」が開催される案内をして頂き、同級生の松下君が講演する事もあり、こちらにも出席して参りました。

そして、私たちの誇りである下村博士と同級生であり最後の薬専卒業者である西川大先輩から乾杯のご発声で懇親会が始まりました。会員の皆様方は円形のテーブルに別れて座り、世代の垣根を越えて料理やお酒を楽しみながら、学生時代や現在の仕事の話に華を咲かせていました。時間が経過して宴が盛り上がったところで、自己紹介が行われました。

この同窓会報への原稿も、例年の支部長寄稿から目線を変え私が依頼された訳ですが…。大分支部会員の一人の近況として報告させてもらおうと、今年度4月より地域ケア会議へ月1回のペースで出席しております。また前年度5月に、新別府病院の梶原先生の旗揚げのもと、大分県薬剤師糖尿病研究会が発足し、微力ながら参加させ

てもらっています。この会は、「日本糖尿病療養指導士、地域糖尿病療養指導士、薬局、病院の区別なく薬剤師として高度で幅広い専門性を生かした薬物治療の実践」を目的としています。去年はシックデイ、今年は腎症をテーマに月1回の例会を行い、出前講座等も行っています。興味のある方は、是非とも一緒に活動できたらと思いますので、ご一報ください。

地域としては、私が働いている臼杵市では行政と医師会の連携が良好で、認知症や糖尿病対策、地域包括ケアシステムをめざす自立支援(地域リハ)に取り組み、「うすき石仏ねっと」が運営されています。これはICTを利用し、住民・患者が安心して日常生活を過ごすために必要な患者本位の医療・福祉サービスの基盤づくりを目指したもので、「石仏カード」を提示していただく事で様々な機関のデータを共有することが出来ます。病院・診療所と訪問看護の連携から始まり、薬局は昨年10月から本格的に参加しています。今年7月からは歯科医全員が参加し(日本初らしいです)、消防署も参加する事で救急初動体制が取り易くなります。今後は在宅医療・介護連携事業と拡充していく予定だそうです。先生方が色々な所で発表されてるので、薬剤師として何が貢献できるか意見があれば教えてください。

私達、昭和61年入学の同窓会が卒25周年として、9月20日に長崎にて行われました。前述の2/14の講演会後のプチ同窓会でも懐かしい顔に会えて嬉しかったです。思い出話はもちろん、お互い薬剤師としての悩みや相談、違う立場での情報収集など、貴重な時間を過ごす事が出来ます。これが、年代を超えて、同じ地域で働く者が集まると、また別の貴重な時間を過ごす事が出来ます。

大分支部の皆さん、是非とも都合がよければ、同窓会に足を運んでください。一緒に楽しく貴重な時間を過ごしましょう。

●● 熊本支部 ●●

幹事 松尾 富士男(昭59)

平成27年度の熊本支部例会は、9月5日(土曜日)午後7時から、熊本市内の上通にある「熊本和数奇司館」で開催いたしました。今年の参加者は12名で、例年より少なめの参加者数でした。

支部長の山本喜一郎さん(院昭55)からの開会のご挨拶に続き、同窓会本部からは今年も、十善会病院薬剤部七種 均 先生(昭56、長葉同窓会副会長)にご出席いただき大学関係の近況報告をいただきました。同窓会の

年間活動状況と最近新たに始めたイベントを詳しくご紹介・ご報告いただきました。将来の同窓会を担う学生さんにも関心を持ってもらうために、白衣のプレゼントなど新しい試みがなされ、益々同窓会の盛会に期待が持てました。また、今話題の世界遺産に登録された軍艦島の動画をご紹介いただき、楽しく拝見させていただきました。

宴もたけなわで、ご出席の皆さんから恒例の近況報告をいただきました。家族を含めた近況報告、授業料が高騰して行った話題、带状疱疹に罹患された方、還暦を迎えた方、比較的熟年で転職された方、など様々な人生を皆さん送られている様子が伺えました。熊本支部の例会は、毎年10数名の参加者ですが、こうした短い時間でも

お互いの情報交換ができるので、とても心が豊かになります。

また、今年もご欠席の皆さんに返信葉書で近況をご報告いただきありがとうございました。とても心温まる内容や来年こそはと参加希望の声などをいただき、ご出席の皆さんと情報を共有いただきました。

最後になりましたが、以下に今年の出席者を列挙させていただきます。

岩下 淑子（昭52）
山本喜一郎（院昭55）
田中 久子（昭56）
上村 康子（昭58）
松尾富士男（昭59）
古海 勝彦（昭61）

古川 真一（昭54）
秦野 正敏（昭56）
木山 容子（昭57）
木山 雄一（昭59）
矢田 道代（昭60）
前田 健次（平5）

（以上12名、敬称略）



平成27年9月5日 於 熊本和数奇司館

●● 佐賀支部若楠会 ●●

馬場 澄絵（平21）

平成27年1月24日午後、佐賀市のグランデはぐれにおいて、平成26年度佐賀支部若楠会総会及び懇親会が開催されました。開会に先立ち、最近、ご逝去された今村博先生（昭18）、西依 廣先生（昭24）、野村忠輔先生（昭25）のご冥福を祈り黙祷を捧げました。総会は藤戸支部長（院昭52）のご挨拶に始まり、続いてご来賓の山中会長よりご祝辞を賜りました。その後、議長に吉田先生（昭55）を選出して議事を終え、写真撮影を行い、懇親会へと移りました。

私は学部を卒業し、調剤薬局へ勤務して7年目ですが、今回初めて支部総会に参加させていただきました。それというのも、仕事の関係で藤戸支部長との御縁があ

り、参加へのお誘いを頂いたからです。これまでは支部会のご案内を頂いても、先輩方が多く私のような若輩者は参加しづらいという印象でした。しかし実際参加してみると、薬剤師会でお世話になっている佛坂先生（昭61）や同期生、薬剤師会の研修会でお見かけする先生方などもいらっしゃり、心配していたより楽しく参加する事ができました。様々な業種で働いていらっしゃる皆さんとお会いでき、医療業界において相互に協力できる態勢を整える為にも、同窓会総会はとてもいい機会であると感じました。しかしながらやはり、若手の卒業生にとってはなかなか参加しづらいというのも実情です。諸先輩方のお声掛けというのも必要不可欠であると感じますので、ぜひご厚意に甘えさせていただければと思います（笑）それぞれ有意義な時間を過ごし、散会となりました。

来年も、宜しく願いいたします。

出席者

山中 國暉 (昭43)	大久保千鶴子 (昭35)	丸野 瑞枝 (昭54)	吉田 泰史 (昭55)
橋崎 妙子 (昭36)	福島 祐作 (昭37)	大田寿美子 (昭56)	佛坂 浩 (昭61)
田中 博輝 (昭39)	富永 義則 (昭44)	福田 朱美 (平2)	志岐 寿子 (平4)
大坪 美穂 (昭47)	西田多津子 (昭49)	古賀 直美 (平4)	関 陽子 (平4)
池田 知子 (昭49)	八谷 緑 (昭50)	木寺 健司 (平15)	三宅 秀明 (平17)
藤戸 博 (院昭52)	末安 智子 (昭52)	馬場 澄絵 (平21)	横尾 広美 (平21)
末安 正典 (昭52)	西依 健 (院昭54)	矢ヶ部良太 (平26)	



平成27年1月24日 於 グランデはがくれ

●● 長崎県北支部 ●●

支部長 相川 康博 (昭48)

平成26年支部同窓会は12月21日、今回も佐世保セントラルホテルで来賓に山中國暉会長をお招きして、総勢27名で開催しました。暮れが迫った時期に開いたのには訳があって、中島憲一郎先生(昭46)が母校を定年退職された後、佐世保にある長崎国際大学の教授として来られて研究を続けておられますが、4月に同大学の副学長に就任、また同大学薬学部の開学に尽力された榊原隆三先生(院昭50)が薬学部長に昇任されました。そこで、支部同窓会はそのお祝い会を兼ねてやろうと日程を調整していたのですが、なかなかうまくいかず、しかし年内

にはというぎりぎりのところでこの日になってしまいました。

会の冒頭で、3月に逝去された牟田良夫先生(昭25)はじめ亡き先輩方に黙祷を捧げた後、山中会長から挨拶をいただきました。そして、中島、榊原のご両人に支部からの心ばかりの祝いの品としてネクタイを送りました。そして夫々から挨拶をいただきました。

乾杯の後、飲食しながら近況を報告し合いました。今回初めて参加され



た大山さゆり姉，小田原志朗兄。長崎に転勤になったが参加してくれた興梠 泰兄。翌3月で長崎国際大学薬学部を退官するという小笠原正良兄など。

暮れの一日のひと時を母校の思い出に花を咲かせながら，そして山中会長からは翌年には薬学部が出来てから125周年を迎えるために記念事業を行う旨の発言があり，長い歴史に感心しながら会をお開きとしました。

出席者

大庭 義史 (特) 今上 亨 (昭25)
松田 雄光 (昭25) 末武 和子 (昭29)

松尾 幸子 (昭34) 林田 匡代 (昭36)
松本 功治 (昭41) 護山 順子 (昭44)
島田志津枝 (昭45) 中島憲一郎 (昭46)
田代佐夫子 (院昭48) 相川 康博 (昭48)
橋本 次男 (昭50) 榊原 隆三 (院昭50)
小笠原正良 (院51) 梅野 一福 (昭54)
大山さゆり (昭60) 小田原志朗 (昭60)
荻野 清子 (昭62) 松本 直樹 (院平1)
松本 玲子 (平1) 井手 指月 (平2)
中村 沙織 (平16) 大神 正次 (平16)
中村 心一 (院平17) 興梠 泰 (平26)



平成26年12月21日 於 佐世保セントラルホテル

●● 長崎県央支部 ●●

支部長 田中 秀二 (昭46)

昼間は気温が25度を超え汗ばむ陽気ですが，朝晩はめっきり涼しくなり雲仙では紅葉の便りも聞かれる平成27年10月25日，絶好の秋晴れの中13名の方々の出席をいただき，大村の諏訪駅そば「味ごよみ ながせ」において，山中同窓会会長を迎え総会及び懇親会を開催いたしました。

総会では，山中会長からご挨拶と同窓会の活動方針や

近況，特に長崎大学薬学部創立125周年記念事業に対する同窓会としての考え方や取り組みについてのご説明と事業に対する協力依頼がございました。その他，どの支部でも総会への参加，特に平成になって卒業された会員の方の参加が少なくご苦勞をされていること，また，ある支部では平成卒の会員の方が多く参加され，夢のある若々しい話題で盛会であったこと，同窓会としても会員の参加を増やすべく試行，努力を重ねられている旨のお話をいただきました。

その後の懇親会では，最長老で一番お元気な山本先生 (昭30) に乾杯の音頭を取っていただき，美味しい料理と飲み物で歓談が始まりました。

少しお酒の入った頃を見計らい、参加者の方々から近況についてご報告をいただきましたが、皆様方大変話がお上手で大いに盛り上がりました。その一部をご紹介しますと「現在、主夫の修行を始め5年?になります。」との言葉に一同「ho・」と感心、感嘆の声、間において先輩から「私は家内が包丁を握れなくなり17年間?主夫をやっとるよ。まだまだ板前修業が足らんよ。主夫業を伝授するから弟子にならんか?」との発言があり、一同笑いに包まれました。また、「昔からのならわし?により先輩から譲られたノートのお陰で卒業できました。」とのお話しがあり、そのノートを贈られた先輩が目の前におられ、その場で感謝の意を表すなど同窓の絆を深め、終始大変和やかな雰囲気でした。

さらに早崎先生(昭41)が「ハヤえもんというソフトを使い、寂しい音色の尺八を明るく楽しくなるように音楽に合わせて吹きましょう。」とPCによる伴奏で大変ユニークな演奏をされる中、特注の呼子のイカと長野の美味しい冷酒が供され、皆様方時間が経つのも忘れて楽しいひとときを過ごしました。

ここで、返信葉書の通信欄に寄せられた方々の近況をご紹介します。

「現在病気療養(入院)中です。」「癌の手術が上手く行き元気に過ごしています。」「残念ですが、他の予定(仕事)が入り参加できません。」「元気に趣味を楽しんでいます。」「仕事(親の介護)に忙しい毎日を送っていま

す。」「非常勤講師をしています。」「子供の卒業まであと一頑張りします。」などのお便りがございました。また、中には「今頃は西海橋あたりを走っています。」とのお元氣な言葉も入っておりました。

最後に若い(?)世代を代表して竹嶋先生(昭48)の三本締めで締めくくり、列車の時間が迫る中、参加者一同来年の再会を約束しながら会場を後にし諏訪駅に急ぎました。

ところで、まだ参加されていない同窓生の皆さん、長崎県央支部は諫早市及び大村市の会員で構成され、家族的で和気あいあいとした雰囲気ですよ。特に平成卒の皆さん、ぜひ一度参加されてみては如何ですか。

次回はより多くの方々の参加をお待ちしております。

最後になりましたが、今年参加された方々を紹介させていただきます。

出席者

山中 國暉(来賓:昭43)	内田 民子(昭44)
山本 勲(昭30)	宮崎 信子(昭46)
西村ヒサ子(昭31)	岩永 直子(昭46)
熊本 公子(昭33)	田中 秀二(昭46)
松村 祐子(昭40)	竹嶋 直樹(昭48)
早崎 義信(昭41)	藤原 正晴(昭51)
平山 文俊(昭41)	山口 正広(昭56)



平成27年10月25日 於 味ごよみ ながせ

●● 長崎支部ぐびろ会 ●●

会長 濱田 哲也 (昭54)

平成27年度の長崎支部ぐびろ会総会は、6月27日(土)にホテルニュー長崎にて開催されました。

昨年は長薬同窓会定期総会が長崎で開催されましたが、今年もぐびろ会総会に多くの方々に参加していただき有意義な時間を経験できましたことをうれしく思います。

水野和美先生(平11)の司会で会次第にしたがい物故会員への黙祷、校歌斉唱、会長挨拶、来賓挨拶と続き議事に入りました。本年度も本部事業への協力ではありますが、長崎支部ぐびろ会ならではの平成26年度事業報告をご紹介します。

原爆慰霊碑の清掃

毎年、ぐびろ会の名前の由縁にもなっております医学部ぐびろが丘の慰霊碑を清掃します。しかし、今回は雨のため実施されませんでした。汗だくになりながらも、学部の先生方や学生さんとの触れ合いもあって意外と楽しいのです。

小野島校舎跡地記念碑の清掃

疎開先であった小野島には狭いながらも立派な記念碑が建立されています。大学からはちょっと遠いので学生さんの参加はありませんが、秋のすがすがしい時間を有意義に過ごしました。

総会終了後に、長薬出身で九州保健福祉大学教授の和田光弘先生(平4)を延岡よりお呼びして講演会を開催しました。多くの同窓の方々が多方面で活躍されていると思うと頼もしくもありうれしい限りです。

また黒田学部長から、長崎大学薬学部創立125周年に関するお話がありました。11月の記念式典にはぜひ参加させていただこうと思っております。

引き続きの懇親会は総勢43名(学生14名)で、明るく華やかなひとときを過ごしました。学生さんとともに楽しめるぐびろ会は他支部から羨ましがられているのではないのでしょうか。来年はもっと多くの会員に参加いただけるよう魅力ある総会を開催したいと思います。

最後に総会開催にご苦勞いただいた役員のみなさん、学生さんにお声掛けいただいた学部の先生方にご場をお借りして深く感謝いたします。



クラス会および近況だより

エッセイ 3 点

服部 俊明 (昭28)

史実と歴史教科書の周辺 27-4-19

我が国では大学受験に戦後史はあまり取り上げられない。従って高校の日本史の授業では、太平洋戦争以後は余り触らない傾向が何時の間にか定着している。

かくして今日のテレビ番組“そこまで言って委員会”で70年前に日本がアメリカと戦争していたことを知らない中高生が最近では何と7割になっているという。これは驚きである。戦時記憶を伝えることは当時生きていた者の義務である。そこで私の経験と記憶を書きとどめることにした。

話は前後するが、今日ではグローバル教育が叫ばれて久しい。そんな中、これからの青少年に日本が戦前、戦中に悪いことをしたと教え込むのは、自虐史観に繋がりが、良い教育とは言えない。それよりも我が国は立派な国であり、良い事をして来た国であると教え込み、将来に自信と勇気を持たせることが大切であるとして、教育が見直され教科書が改訂されている。

しかしこれは偏狭な島国教育であり、グローバルなスタンスからは百害あって一利なしである。中国は経済では爆買い、政治は韓国とともに反日を露わにしている。あの戦争で負けたドイツはメルケル首相は何年でも謝り続けることが大切だとして、ヒトラー一派を完全に追放してきた。その為に近隣諸国とうまくいっている比率は94%に対し、我が国では46%と低調であると4/14の朝日は報じていた。先般ドイツのメルケル首相は来日しての感想で、ワイツゼッカーの警句“過去に眼を閉ざす者は、現在にも盲目となる。”を引用して日本の政治家に緊張を煽らないように反省を迫った。

我が国は先の大戦に至る過程で、良く満州事変に遡って考えるべきだという人が居るが、私は明治27、8年の日清戦争に遡る必要があると思う。

日清戦争では当時華夷思想の清国と朝鮮をめぐる我が国は朝鮮の内乱に清国と共に介入したのが始まりで、その後現地に居据わって、両国間の戦争に発展した。この時日本は圧倒的に勝利したので、下関市の春帆楼で講和会議が開かれた。つまり下関条約である。

この内容は①清国は朝鮮の独立を確認し ②軍費二億テールを賠償 ③台湾と遼東半島及び澎湖諸島を割譲 ④沙市重慶・蘇州・杭州を交易市場とするなどであった。この賠償金額は当時我が国の歳入の2年分であったという。後で三国干渉を受けて遼東半島は返還した。この賠

償金で日本は東洋一の官営八幡製鉄所を造り、軍艦を大增産して軍備を拡張した。

このことは中国からすれば、恨み骨髓、臥薪嘗胆と成ったであろう。長い目で見れば勝って取れば良いというものではない。今日の反日感情は遼れは清国の李全権大使に強引に条約を締結させたのが出発点だと思う。我が国はこの成果は伊藤博文の功績であるとして彼は華族制度の公爵に任じた。が、清国からすれば戦ってもいない台湾を割譲とは論外と反駁したが、伊藤はそれならば今からでも兵を台湾に差し向けるがどうだと迫った。李大使は本国に打電連絡を取り泣く泣く涙をのんで講和条約の煮え湯飲まされたことだろう。私は嘗て春帆楼を訪ねて会議の遺構と文書を閲覧して臨場感に襟を正した。

私は此の情景は岩に立つライオンと白兎の会談と言う気がしてならない。そして10年後には清国からの賠償金で建造された軍艦は屈指の海軍力を誇るに至った。

その後、日露戦争では日本海海戦で東郷元帥はロシアのバルチック艦隊を打ち破り、乃木大将は203高地のロシア陸軍のステッセル將軍を破って、日露戦争を勝ち抜きやがて満州国を樹立(日本の傀儡国家)した。これ等の強引な手法は国際社会からはじかれて石油の輸出制裁などを受けた。こうした流れの中で遂に太平洋戦争に突入していったのである。

苦闘の末敗戦となったが、我が国はこれを終戦と言い換えた。またあの戦争を美化する動きもある。今日の発展はあの戦争で亡くなられた幾多の英霊の御蔭だという。しかし考えればあの戦争で近隣諸国に多大な損害を与え、我が国も到る所焼け野が原と化したのだ。勝って戦利品や莫大な賠償金を受け取ったら英霊の御蔭と言えるが、現実には真逆である。なんであんな戦争をしたかと悔やんでも悔やみきれない。汝臣民として国家総動員法を造り学業半ばで戦地に赴き、海行かば水漬り屍、山行かば草生す屍、大君のへにこそ死なめ、省みはせじ。特攻隊員として飛行機もろ共敵艦に爆死した人、玉砕と言う美名の中で万歳突撃をした人、壕の中で火炎放射器で焼き殺された人、野戦での戦病死や泥水を飲み草を嚙んで遂に餓死した人、人、兵士、兵士。彼ら兵士の中には帝国万歳と叫んで戦死した人、故郷と肉親を偲んで泣いたうら若い兵士、自分の人生を運命と諦めて受容した人、これら断末魔の姿は想像しても尚余りがあります。

彼ら兵士は何を考え何を祈ったのか? 聞きたい海神

(わたつみ) の声を!

史実は無念の涙で泣いている。嗤っている者もいるだろう。だが戦争は不適切な一握りの指導者によって引き起こされた超人災である。広島原爆公園には『過ちは繰り返しません』の碑文が刻まれている。『一億総懺悔』と言った人もいた。日本の統帥権と責任が問われている。莫大な犠牲の上に獲得した主権在民と言う憲法を改正して、主権を奉還する向きもある。不磨の大典と言われた憲法が一番守らねばならない立場の政治屋に翻弄されようとしている。国民の意思表示は投票だけなのに最近の投票率が50%を切っているのは積極的平和主義と言う名の軍国主義の再来を危惧するものである。

教科書は策を弄せず事実を客観的に書いて貰いたい。

そのうえで百年の歴史家の批判に耐えうるものでなければならぬ。また近隣諸国から横槍が入るものであってはならない。

私と敗戦 (8月15日)

その日は珍しく空襲のない晴天だった。僕ら学徒動員中学生は職場の川棚海軍工廠の広場に集められた。そこで玉音放送を聴いて敗戦を知りました。

大勢の人が嗚咽の声で泣きました。拳を握りしめて復讐を誓う軍国少年もいましたが、誰言うもなく悪夢からの解放と生きている自分に安堵しました。

何でこんな無駄な負け戦を満身創痍の中で4年も続けたのか。降参が早ければ原爆の洗礼は無かったのに!

やがて占領軍の大機動部隊が全国全土を制圧しました。

マッカーサー元帥は日本は12歳の少年だと言った。

JR仙石線と石巻線に行く 27-8-23

東日本大震災から丸4年半が過ぎました。此の間全国各地各界からの絶大なるご支援に感謝申し上げます。今回やっとJR仙石線が全面開通したので、それを利用して被災地の浜通りを訪問して、現状を見聞して来ました。

仙台を出て大きな車窓に移り行く被災地の仙台の港湾地区を経て、激甚災害の多賀城地区に入りました。その惨状は今も残るペンペン草やセイタカアワダチソウが生い茂る所があちらこちらに見られた。嘗て津波の状況をテレビやビデオの放映を何回も拝見していたので、それを思い出して感慨は一入でした。

以前ドライブで良く通った風光明媚な松島界隈、中でも見返りの松からの眺めは格別でした。松島海岸駅周辺は松島湾に浮かぶ多くの島が防波堤となり、この観光ホテル地区は比較的災害が少なかったという。ここを過ぎて更に北上すれば松島湾の嵌入する東名地区は一面津波と地盤沈下もあって、今でも水没したままの所もあるのか。そこで新しい駅は遥かに陸地に後退しており、その高台からの眺めは嘗ての面影はない。往時の激甚災害を

偲んで冥福を祈った。ここから野蒜地区までの貞山堀を含む町や水田は干潟の様相を呈していた。

野蒜駅地区は津波で電車が山の中腹まで押し上げられ、なぎ倒されて、くの字型にへし折られて無残な姿を呈していたが、今では撤去されて、荒涼たる原野と化している。毎年海水浴や民宿として利用した嵯峨ビーチホテルは跡形もなかった。しかしこのホテルは各種会合や研修旅行でも何回かお世話になった。終夜までのカラオケ大会も懐かしい思い出である。それに翌日の帰りは電車の上り線が冠水で不通となっており、石巻まで下り線で行き、遠回りしてバスで仙台に帰り着いたのも懐かしい思い出である。また廃墟と化した簡保会館は潮風に晒されていた。大高森周辺は僅かに松林が残されたままであった。またその奥の月浜には釣り海水浴でお世話になった民宿『松山荘』は面影もなく、荒涼たる白浜となっていた。多分多くの方が大津波に攫われた事だろう。それにしても瓦礫の撤去と道路の確保の為に尽力された自衛隊や消防、警察、をはじめボランティアの方がたに敬意を払って止まない。

航空自衛隊の松島基地が右手に見えた。津波で流された自衛隊機のブルーインパルス。その航空ショーでは轟音と共に編隊飛行の曲芸が暁を過る。そこを過ぎれば蛇田である。きっと昔は沼地で蛇やカエルがうようよ居ただろうことを想像しながら石巻に着いた。

以前から石巻市の商店街は名だたるシャッター街だったが、震災後は人影も少なく更に拍車が掛かっていた。ここから目的の女川駅までは今回新たに開通した石巻線(石巻駅⇄女川駅)である。電車の接続の待ち合わせ時間は一時間余りだった。

石巻の長閑な万石浦を右手に見て電車は進む。その途中で浅瀬の海に乗り上げて腰まで水没正座の放置された中型の難波した漁船を窓越しに見つけた。が、是は大津波と地盤沈下の震災遺構の記念船か!

こうしてやっと最終目的の女川に着いた。七十七銀行女川支店の支店長以下10数名が大津波の犠牲になられた所である。今ではそこは10メートルも土盛りされて嵩上げの土台となっていた。行政の区画整理で駅前の広場は日曜と言うのに閑散。お店はひっそりと2軒しかなかった。訪れる人も少なく、防潮堤は10メートルの嵩上げで恰も城壁をなしていた。その上を道路が走るの、視界を遮りあたかも堅牢な城郭に囲まれた宮廷公園の気がした。そこには“潮風の吹く町”のイメージは無かった。

仮設に住む住民は当初計画から後退して、親戚や知人を頼って仙台やゆかりの地に仮移転し、生活のコミュニティがそこに出来て戻らない人が多いという。此処でもまた行政の都市計画と地域住民のニーズがミスマッチしている。これは20年前の阪神大震災の神戸市と同じ轍を踏んでいる気がしてならない。昼食は高台の仮設に移設された仮店舗の『お魚いちば、おかせい』に行った。特選女川井はお魚の盛井で新鮮なウニを始め具が一杯で美

味しかった。狭い店舗ながら満席だった。

帰りの電車の時間待ちで駅前の『かふえ・さくら』に寄ってお茶をしたが、御客が少なかったので女将さんは震災当時の様子や復興の経過の写真などを見せながら色々と説明してくれた。…

しかし東京五輪と対比してこの町の復興には更に5年は掛かりそうである。或は此の儘衰退かも知れないと憂慮される。看板の足湯は湯のない空湯だった。しかしここが浜に住む人々の辛抱のしどころ、底力であり心意気であろう。純朴なこの町の人びとに幸あれと祈りながら帰途に就いた。

なお当駅は駅舎のデザインは飛翔を願って、鷗が羽を広げて飛び立つ姿をイメージした白い3階建ての駅舎であった。2階は今流行の新型浴場、3階は万一の避難場所だという。

あと一つは女川風流保存会である。石巻で被災地との交流会が開かれ老人福祉センターの御世話で参加した。その時、女川に伝承される『女川風流』は震災で忘却させない為に、団員の熱意で復活。家族に犠牲者を出しながらも雄々しく立ち上がり、伝統衣装に身を包んだ唐草模様の獅子舞を始め、お祭法被の笛や連太鼓の打ち合いでその響きはズシンと腹に伝えた。オマケに私は獅子舞に頭を噛んで貰ったが呆け防止になるとかで有難かった。

城壁のかもめ広場は戯れる
千鳥なければ潮騒もなし

天の赦すところ 27-10-10

今回幸運にも一流のオペラ歌手による、管弦劇を拝聴した。心に残る名場面の連続！「天の赦すところ」である。

ここ仙台では伊達400年のイベントが青葉祭りとして街を上げての記念行事が行われているが、西の方でも宇和島伊達400年のイベントが盛大に行われている。此の両市は姉妹都市として長らく友好を保ってきた。

さて、この劇の時代背景は我が国の戦国時代で秀吉が天下を統一してから、徳川に移る頃の話である。東北の雄伊達政宗は正室に子供が出来なかったころ、側室新造の方に男子が生まれた。秀宗と名付けて、政宗も周りも跡取りとして大切に育てた。ところがやがて正室の愛姫に男子が生まれて忠宗と名付けた。政宗は苦悩の末、正室の心情を考えて家督を此の次男の忠宗に変更した。

その頃秀吉は伊達の忠誠を担保するために「人質」に大阪に差し出すように命じた。そこで秀宗は豊臣の臣下の宇喜多秀家の屋敷に囲われた。関が原で敗れた西軍の残党に秀宗は命の危機に見舞われる。守役の能勢修理大夫と侍女おたあの機転で難を逃れるが、おたあから朝鮮征伐の悲惨を聞かされた秀宗は《生涯戦いをせず人間ら

しく生きることを誓う》のである。徳川方に保護された秀宗は、14年後大坂冬の陣に参戦を命ぜられた。秀宗は世話になった豊臣方に弓を引くことになるので、痛恨の極みでの参戦であった。秀宗の苦渋を家臣の山家清兵衛が「理外の理」として説得する。この清兵衛は政宗が遣わした家臣だから逆らえず一人嗚咽する。

2か月後冬の陣の功績で秀宗は宇和島10万石を拝領する。しかし仙台62万石を拝領した弟の忠宗と父政宗に骨肉の憎しみと嫉妬を燃やしていく。

その頃、旅の途中秀宗は駿府城に仕えていたおたあとと再会。が、キリシタン迫害に遭い島流しに処せられている。所持品の「養父の形見のロザリオ」を秀宗が所望したことから事は思いも寄らぬところに進んでいく。…

キリシタン禁制とロザリオをめぐる機転と攻防。

秀宗の行く末を案じた、おたあの朋輩おくらの機転。掟を破った女人らを乗せた船は、おたあの歌う「アニユステイ」と共に沖の彼方に流されていく。

歌が終わると場面は一転し、時は20年後の寛永13年。政宗は病床にあり余命いくばくもない。將軍家光との対面で同座を許されて父の館を訪れた秀宗は、自分の犯した罪の重さに苛まれ清兵衛殺害を告白する。おたあとの誓いを破り、けだもの同然になり下がったわが身を悔いる秀宗に政宗が掛けた言葉は…私は親子の真の心の交流の涙の対話と政宗役の大山大輔のアリアに極限の感動を覚えた。

「馬上少年すぐ。世平にして白髪多し。残軀天の赦すところ。楽しまずして此れいかんせん。」 政宗

「曇りなき心の月を先立て浮世の闇を照らしてぞ逝く」

此れは政宗の辞世の句である。政宗は偉大な文筆家であった。この句は政宗が後の世と伊達一家の行く末を案じての辞世の句である。何とも壮大なスケールであろうか。それにしても長男秀宗と次男忠宗の和解と一家の繁栄を祈りながら悠然と旅立ったと思われる。

さて現在では、新憲法のもとでは個人として尊重される。家父長制が後退して子は全て昔の非嫡出子も含めて総て平等となった。それに加えて個人情報秘密保護法のもと家族であっても人間関係が希薄になってきた。愛国心や愛社精神も薄まりかけている。家庭内においてもお互いに余り干渉しない傾向が見られて、骨肉のいさかきも後を絶たない。そのうちに年金の受け取りの関係から、後期高齢者と若者の間で敵対する構図が生まれかけている。SNSの普及で自分の気に入った人としか付き合わない。携帯も見知らぬ人からのメールは非通知として受け取らない。

こんな時に戦国時代の家制度と、特に中興の祖ともいふべき日本古来の美徳が忘却されている。安倍総理は昔の「教育に関する勅語」を見直すべきだとして教育再生が叫ばれているのは尤もな話では無かろうか。人として見習うべきところは取り入れるにやぶさかではない。今こそ社会の緩んだ籠を締めなおすときであろう。

平成27年第28回三朋会（昭和30年卒）だより

山本 勲（昭30）

山朋会も度を重ねること28回、卒後60年所謂還暦の年でもあります。今年も、昨年と同じく稲佐山観光ホテルにて催しました。年々参加者が減少するなか何人が出席していただけるか気がかりでしたが、平成27年4月8日から2泊3日で別記の10名の方の参加をえてなごやかに開催することができ皆様に感謝申し上げます。

1日目は、午後6時鬼籍に入られた皆様のご冥福を祈って黙祷を捧げ、その後、卒後60年を祝って記念写真を撮影したのち開宴いたしました。味わい深い郷土料理（卓袱）に舌鼓をうちながら、例年のごとくいろいろな話題で盛り上がり、場を部屋に移し替え再び歓談。

2日目は路線バスの旅【キリシタンの里（出津教会）・遠藤周作文学館とランチバイキング】に出発。長崎駅前発、文学館入口下車。道の駅「文学館入口」にて結構なランチバイキングを楽しみ、遠藤周作文学館を訪れ周作文学の神髄に触れ、その後、フランス人宣教師ド・ロ神父が設計施工した出津教会のほか関連施設を見学し、再びバスにて長崎駅前へ。この間、思いもよらない想定外

の急な坂道・階段を歩かせてしまったことを幹事として深くお詫び申し上げます。

2日目の夜は、稲佐山山頂展望台レストラン【ひかりのレストラン】へ。当日は小雨に霞んだ趣のある新世界三大夜景をサカナに次々に出てくる珍味を堪能し山をあとにし宿へ。

今後の三朋会の開催は未定と言うことで閉会。10日朝食後次回の開催予定を期待しながら解散しました。

参加者（敬称略）：

黒岩幸雄、小島 弘、郷野美智子、酒井裕子、馬詰久子、峯 武磨・京子、宮崎タツ子、山戸 寿、山本 勲

●追伸：今年7月初旬かねてより療養中の川本 毅君ご逝去、又、同じく、今年お元気に会にご参加頂いた馬詰久子さんが急逝されました。お二方のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

合掌

皆様、くれぐれも健康に留意され、次回の再会を期待いたします。



三朋会 平成27年4月8日 於 稲佐山観光ホテル

三葉会（昭和34年卒）の開催

富安 一夫（昭34）

平成27年の三葉会は久しぶりに東京で実施しました。これまでは長崎・福岡をはじめとする西日本地区で多く行われてきましたが、関東では最後になるかも知れないと思いつ画をしました。

卒業してから56年が経過しました。さすがに年齢には逆らえず仲間も足・腰及び病気の不安等から参加が難しくなり、毎年参加人数が減少傾向にあるのはさびしいことです。それでも男4名、女8名合計12名の参加者があり、1年ぶりの再会ができたことは喜ばしいことでした。

10月29日上野駅に集合後、浅草に向かいました。最初は浅草の浅草寺のお参りと仲見世の散策。江戸を代表する観光地ですが今や国際的な名所になっていて大混雑でした。中国語、韓国語、英語が飛び交い人種のつぼとなっています。評判の東京スカイツリーを間近で見られることも人気の要因かもしれません。

浅草見物後は、すぐ近くの船乗り場から隅田川と東京湾を巡る「屋形船」に乗りました。日暮れ時でしたので船から見る夜景の見物でした。蔵前橋、両国橋、永代橋、勝鬃橋等と歴史ある名前の橋げたをくぐり東京湾に出ます。そしてレインボーブリッジをくぐると東京の街の夜景が一気に目に飛び込んできます。高層ビルやマンションの明かりが海を取り囲み東京タワーもあり、後ろにはお台場の夜景がすぐ近くに見えます。

船内では握りずしの他、揚げたての天ぷらが食べ放題で、東京湾でとれた魚類もふんだんに出されました。アル

コール等、飲み物も飲み放題ですが、船中ではそんなに飲めるものではありませんでした。16人以上の貸し切りなら「カラオケ」も楽しめますが残念ながら乗合いなので比較的静かな舟遊びでした。およそ1時間半後に乗船場にもどり浅草のホテル泊です。ここでいつもの歓談です。

二日目は両国にある「江戸東京博物館」に行きました。今年3月にリニューアルしたのでかなり充実してきました。江戸城や幕府体制の解説のほか、江戸時代の暮らしが経済、文化、生活等各方面からわかりやすく展示されており、解説も豊富でした。江戸の雰囲気が満ちており、江戸時代の小説やテレビ等に関心がある人には面白い博物館です。昼食は、東京駅隣接の27階の展望ホテルレストランでした。これで解散ですが、ここが今度の旅行で唯一の近代的な立ち寄り場所でした。

以上が今回の内容ですが、お互いの年齢と体調を考慮し動く距離をできるだけ短くすることに主眼をおきました。東京も近年急速に変化してきています。その中で今回はあえて江戸を中心に観光した三葉会でした。欲を言えば両国まで行ったので国技館内の「相撲博物館」や周辺の各力士部屋巡り、「ちゃんこ鍋」もありましたが時間の関係で省略したのが残念です。

今回は田中良子、上野美智子、富安一夫が幹事を務めました。前は南紀白浜、今回は東京、次回は福岡周辺での開催が予定されています。今度は地元に近いので健康に留意して参加者が少しでも多いことを祈っています。



昭和35年卒55周年同期会だより

桑山 良照 (昭35)

「おっ、久しぶり!」「あら、元気そうね!」さる5月30日に開いた同期会の受付をされていて聞いた皆さんの最初の声でした。3年前は中尾君、松尾君のお世話により鎌倉で開催していただき楽しい同期会でした。その終了後、次は55周年を迎えるので、長崎で開催して欲しいとの提案があり、私が幹事を引き受けました。引き受けたもののやはり相談相手が欲しく木下君にいろいろ相談に乗ってもらいました。さて、開催時期をどうするかも相談して、なんとといっても80歳に近い者ばかりだから、暖かくなって新緑の頃が良いのではないかと5月開催と決め、場所は長崎駅からあまり遠くない所、セントヒル長崎にしました。参加者は男性10名、女性12名 計22名で久しぶりに20名を超す参加で幹事としては大変嬉しいことでした。欠席の理由は体調不良が多く、中尾君が家庭の事情で出席できなかったのは大変残念なことでした。会は予定通り6時に始まり、乾杯の音頭を久しぶりに参加した井上君にお願いしました。会が始まり30分もすると大変賑やかになり、学生時代の話は少なく近況で特に体調の話が主なようで、やはり年は争えないもののだと思いました。ホテルの好意で3時間の時間を貰っていたのですが、あっという間に9時になりあとは幹事の部屋に移動11時すぎまで話は尽きずと言う感じでした。

翌日は私としては、それぞれに4年間過ごした長崎の町でもう一度行って見たいなーという場所があるのではないかと思い、フリーにしようと思っていましたところ、松尾君から雲仙に行き温泉を楽しみたいので世話してくれとの連絡があり、雲仙の福田さんに連絡したところ何人でもいいですよとのご返事をいただき、雲仙行きを募集したところ男子3名、女子8名が行きたいと申込み福田屋にお世話になることにしました。ちなみに福田屋は同期生の福田葉子さんが大女将でバスの手配など大変お世話になりました。長業卒業生の皆様雲仙にお出かけの節はぜひ福田屋(0957-73-2151)をご利用ください。

ということで、雲仙行希望者は5月31日9時30分、ホテルを出発し、まず長崎歴史博物館を見学11時からの長崎奉行所のお裁きも見て、昼食は中華街の昼定食をいただき、雲仙に向かいました。途中の愛野展望台は晴れて素晴らしい景色でしたが、雲仙の仁田峠では霧がかかりおまけに霧島ツツジは終わっていたので、すぐ福田屋に帰り一風呂浴び暫く休憩したらもう夕食の時間となり、豪華な夕食を目の前にまたおしゃべりが始まりました。特に全員が話題に参加する訳ではなく両隣の人とこども近況、健康問題が主な話題のようでした。食事後福田さんが用意してくれた二次会用の別室でまたしゃべり全



平成27年5月30日 於 セントヒル長崎

員満ち足りた気分で自室に引き上げていきました。翌日はそれぞれの計画に合わせ雲仙を離れました。次回の予定は未定のままで2年後をめどに何とかしたいものだと思っています。

参加者：荒川（清子、一瀬）、荒川（安子、松崎）、井上（松本）、井上、大久保（後川）、小川（小川）、北島、木下、草野（佐藤）、桑原、桑山、桑山（田川）、佐伯、中村、西山（後藤）、長谷川、福田（小池）、藤岡、松尾、元永（西山）、本村（川崎）、渡邊（山田）

追記：同期会の余剰金がここ数回で5万円弱になりました。次の同期会の開催も未定のままで、余剰金をどうしようかと考えていたところ125周年の寄付金の件がありましたので、当該幹事（桑山、中尾、西山、松尾、福田、木下）の話し合いで、「昭和35年卒業生一同」の名前で5万円丁度にして寄付をすることに致しました。まことに勝手ながら、ご了承いただければ幸いです。

36ばってん会（昭和36年卒クラス会）の報告

白松 一良（昭36）

平成27年10月22日（木）14時過ぎ、東京駅は柔らかな秋の陽ざしの下、優雅でどっしりとした姿で二年ぶりの同期生12名の再会を暖かく迎えてくれました。関東在住の4名が当番幹事として諸準備など打ち合わせを行った所は東京駅丸の内南口に近い中華料理店「福龍小籠堂」と言い、小籠包はなかなかの評判の店です。老骨に鞭打ってしばしば会うのも大変なので携帯電話やパソコンで連絡を取り合い、文明の利器は誠に便利なものと再認識しました。喜寿を迎えた我々は直前にならないと健康状態や周囲の状況から最終のGOサインが出せず、今回も直前で5名の参加取り止めがありました。残念な思い

と同時にナニが起きるか分からない年齢を強く感じさせられた次第です。

歳とともに細かい手筈が次第に大変になり、今年は全面的に「はとバス」のプログラムに乗ることとしました。近頃の東京見物は色々なルートが沢山用意され、選択に困る程でしたが、「シンフォニーサンセットクルーズと夜景の東京スカイツリー」のコースに決まりました。目玉は豪華船での食事と東京ウォーターフロントのサンセット、話題の東京スカイツリー見物です。

旧姓新姓入り乱れ昔話の花盛り

50年ぶりに会う友もあり、バスのりばでは早速懐かし



平成27年10月22日 於「シンフォニー号」前

い話・積もる話で大いに盛り上がりました。さあ、いよいよ15時半、元気イッパイのガイドさんの案内で日の出棧橋に向かうと、白くてスマートな船体が二隻接岸中。その一つ、我々が乗船した「シンフォニー・モデルナ号」は総トン数2,618トン、乗客600人収容の海に浮かぶ瀟洒なホテルのようでした。2階のプレリユードの間で12名全員が同じテーブルを囲み、出航のドラの音を聞きながらまずは赤ワインで乾杯！近況報告に花が咲きました。趣味の楽しさ、健康談義、中でも効果的な運動の仕方、果ては如何にして恐るべき認知症を近づけさせないか等等など話題は尽きません。フランス料理はメインのステーキが美味しくパンも最高でした。牛肉アレルギーの仲間にも急遽魚料理に変えて対応して頂き、スタッフやシェフに大感謝です。

航路はレインボーブリッジの真下を通過し、お台場を左横に眺めながら青くライトアップされた東京ゲートブリッジを経て、羽田空港沖を巡るルートです。帰航直前のデッキからは、東京タワーと東京スカイツリーが同じ視野で夕暮れに浮かび上がり実にロマンチックでした。あつという間の2時間の船旅でした。

再びバスに戻り、銀座通り、歌舞伎座、日本橋を車窓から望み、最終目的地の東京スカイツリーに到着。

光も人も流れを変えるスカイツリー

団体専用入り口からスムーズにエレベーターに向かいました。エレベーターは天望シャトルと呼ばれ、内装は

秋の祭りの空をイメージした金色の見事な九谷焼です。天望デッキは350メートルの高さにあり、360度の夜景は眠らない大都市そのまま、どこまでも眩しいほど輝き、日本の一極集中の現実に複雑な気持ちにさせられました。黒くうねる隅田川に架かる橋も美しく、中でも桜橋のライティングは魅惑的でした。丁度ハッピーハロウィンの飾りが随所に置かれ平和ニッポンの象徴を見ているようでした。

誰が護ると言うのこの国の形

21時半、予定通りに東京駅に到着、有意義なクラス会が終わりました。

次回は、皆が傘寿を迎える3年後に長崎で集まろうとの声になり、それまではせめて今の元気を維持する努力をしようと約束し散会しました。

出席者（順不同、敬称略）

浅井 武、越中利治、栗屋順子、黒田 誠、酒井 理、園田フミ、白松一良、武田成子、伊藤由紀子、味田和子、野崎恵子、宇田 照（以上12名）



大薬11回生同期会の報告

左利 龍彦（昭38）

一昨年長崎で開催された卒後50周年記念同期会からあつという間に一年半が過ぎ、戦後70年の節目の今年は4月2日桜の花が満開の広島に皆さんをお迎え致しました。

宴会場と宿は広島駅前の広島七川（現在は六川）の一つ猿川ほとりのホテルセンチュリー21広島を選びました。

午後4時から始めた受付の一番乗りは東京からの城さんで、朝4時起きで広島に入り宮島の弥山を歩いて登ってきたとお話にはびっくり。さすが山女の面目躍如と言ったところででした。5時過ぎには参加予定者19名全員元気な顔が勢揃いし、各部屋では廊下に声が漏れるほどお話を花が咲いていました。

一段落したところで11階の「京もみじ」にお集まりいただき集合写真を撮り、いよいよ懇親会の運びとなりました。久しぶりに参加された鰐石さんから思いもよらない差し入れがあり呑み助の面々から驚嘆の声が上がりま

した。今では世界的ブランドとなった銘酒「獺祭」だったのです。早速全員のグラスに注ぎ鰐石さんのご発声で宴が始まりました。

地産の食材を多く取り入れた料理に舌鼓を打ちながら徐々に盛り上がり、各自の近況報告の頃にはすっかり出来上がり後期高齢者の話題の定番でもある健康・趣味・孫についての話が多く聞かれ皆さんそれぞれ相槌を打っておられました。

続いて久保さんに用意して頂いたビンゴゲームで楽しい二時間はあつという間に過ぎ、次の開催地は嬉野温泉と決まり二次会へと移っていきました。二次会はカラオケ組と談笑組に分かれ夜の更けるのも忘れ旧交を温め合いました。

翌4月3日は生憎の雨でしたが早めの朝食を済ませ、8時にホテル玄関前で6名の皆さんに見送られて、13名がマイクロバスで江田島の旧海軍兵学校へと出発しました。途中の広島呉道路からの海岸線、音戸大橋からの海

原も雨の為絶景とはいかず誠に残念でした。音戸の瀬戸公園で休憩し一路目的地へと向かいました。

9時半過ぎに無事、本日の目的地である旧海軍兵学校へ到着しました。当日は幹部候補生の入校式で来賓の到着と重なり緊張の張りつめた空気の中、受付を済ませ江田島クラブに入り番号札を胸に付け待機しました。

江田島の旧海軍兵学校は明治21年に東京築地から移転し第15期から第74期まで11,143名の卒業生を数え世界3大海軍兵学校の一つとしてアナポリス（米国）、ダートマス（英国）海軍兵学校と肩を並べていました。

10時半から見学が始まり最初に教育参考館を見学しました。昭和11年に竣工した参考館の正面に建つ巨大な六本のイオニア式石柱は立派で見事なものでした。

説明員の指示に従い一礼をして入館すると空気が一変したような気分になりました。中央階段正面に設けられた東郷元帥の遺髪室に向かって赤絨毯の敷かれた階段を上り資料室に入り、沢山の海軍兵学校の歴史資料を見学し、最後に神風特攻隊の資料を見て久しぶりに身の引き締まる思いをしました。

館を出て「坂の上の雲」の撮影現場になった生徒館の建物を見ながら大正6年竣工の大講堂へと移りました。

正面に玉座が設けられていて江田島の教育訓練の拠点だった事が偲ばれました。

昼食はレストラン江田島で海軍カレーと海軍兵学校ビールを美味しく頂きました。売店でそれぞれお土産を調達されマイクロバスに乗り込み一路広島駅に向け出発しました。参考までに江田島旧海軍兵学校は黒部、マッサンの余市と並んで国内無料見学地のベスト3の一つでもあるそうです。

広島駅には予定通りの時刻に到着し次回嬉野温泉での再会を誓ってそれぞれ帰路につかれました。

最後になりましたが、この同期会を盛り上げる為にご意見を下さった皆様、早めに広島入りし、お手伝いをして頂いた皆様に感謝申し上げますと共に現在病氣療養中の方、介護に専念されている方の一日も早いご快復を祈念致しております。再来年、嬉野でお会いしましょう。今回の出席者

女性：井川（田川）、小隈、北見（山内）、久保（今井）、小波蔵（知念）、城（平方）、柴田（豊原）、松本（門脇）、鰐石（藤野）

男性：青木、井口、大坪、岡、左利、高橋、戸川、中野、山本、渡部



平成27年4月2日 於 ホテルセンチュリー21

長薬昭40年卒業後50周年同期会報告

江藤 好信（昭40）

昭40年卒業後50周年同期会を平成27年4月16日、17日に長崎・稲佐山観光ホテルで実施しました。

2011.3.11の東日本大震災の発生で、当年5月に予定していた江の島での同期会は余震も在り中止せざるを得ませんでした。

別の場所を探したのですが、参加者も少なく断念しました。このままでは昭40年卒の同期会も潰れてしまうので、卒業後50周年として今年の4月に長崎で実施する事にしました。

昨年10月に黒川君と1年後輩の伊豫屋前同窓会長との3人で下調べをしました。

未だ現役で働いている人、親・配偶者他の介護、本人の療養の人も居られるなか、一泊二日の同期会に出て、再会の喜びを味わってはと案内しました。

前日まで配偶者の具合で出欠未定の人も欠席に成りましたが、関東組10名含み出席者は男5名女16名の21名に成りました。

*幹事（大阪在住）の今回同期会時のメモで

4月16日 前日までの悪天候も去り、春の陽気。

9時前に出発 10時の新幹線乗車

13:20 新鳥栖で“かもめ”諫早の手前で大雨！ 長崎では晴れ！

14:45 長崎駅到着前のドアの傍で、白い服装で黒いサングラスの女性に声を掛けられる。サングラスを取ると堀江さんでした。一時間強、同じ車両に知らずに乗っていたとは。

15:20 今日のホテル“稲佐山観光ホテル”到着。宿泊内容最終打ち合わせ。

16:00 長崎駅からのホテル迎え組到着。懐かしい人が集まりました。

17:00 入浴

18:10 今回の趣旨、物故者（5名）への黙祷、記念撮影。

18:20 9階の展望ラウンジでの世界三大夜景の一つを見ながら卓袱料理での宴会。欠席者からのハガキ回覧。各人の近況報告。

21:00 中締め
(別室へ移動し)懇談。次回幹事を福島君へ依頼。福島君より3年後に実施。全員へ出席を要請。

23:00 解散

4月17日 各人朝食

9:40 出発（ホテルのバス）

9:55 長薬同窓会館、下村記念館。下村先生の業積を見る。
(事務局武次さんにはお世話に成りました)



平成27年4月16日 於 稲佐山観光ホテル

上段左より 磯野（坪内） 堀江（金子） 川越（増田） 中村 西村（滝田） 松村（田中） 松永（岩） 福島（ヒ條）
中段左より 清水（武田） 横尾（長岡） 行本（鷺田） 山縣（藤原） 藤原（松村） 牧瀬（今西）
下段左より 田口（津戸） 山脇（那須） 松田 江藤 山口 福島 今木

- 10:40 移動（電車：各人負担）
五島見学組4人は別行動。
- 10:50 原爆落下中心地、原爆資料館等。
- 12:00 寶來軒別館で昼食。
1人だけ現れず心配しましたが
- 14:00 解散 出席の皆様有難うございました。
久しぶりの長崎で、墓参される人も多かった様に思います。

稲佐山観光ホテルの皆様、寶來軒別館の皆様
本当に有難うございました。

日頃の行いが良いせい、16日、17日と“うらかな日”でした。

昭和40年卒の皆様、3年後には福島君を幹事にして元気に集まりましょう！

四国88ヶ所遍路独り歩きの記

竹尾 禎二（昭42）

[始めに]

平成27年10月の終わりに同級学年理事である井上一顕君より突然電話があった。同窓会誌に遍路体験記の原稿依頼である。しかも提出日も11月半ば迄とのこと。私が88ヶ所遍路を独りで歩き通し、一応四国一周も達成した話に感動(?)したとのことである。完歩はしたが3年に分けて①番札所から⑧番札所を歩き参拝しただけである。しいて言えば、私が67~69歳比較的高年齢で歩き、ガンや軽い脳梗塞を経験した後での四国一周独り歩きの遍路であったためであろう。理事の井上君の依頼を無下に断われず承諾した。

[遍路の動機・歩き方]

従来遍路苦行は病氣回復や心の修業を目的として歩く。私の場合、一生に一度は88ヶ所巡礼をしたいと思っていた。特に、昭和60~63年に放映されたNHKテレビ番組「花へんろ」を見てさらに意を強めた。脚本の早坂暁は愛媛・松山の出身で自分の育った生家にまつわる巡礼者の話や、母親が我が子（早坂氏本人）の病氣回復を願って遍路する内容であった。時を経て、薬局を人に譲り、病氣も一段落したのは66歳になっていた。気持ちに余裕もでき、自由な時間がもてるようになったので、念願の四国遍路を思い立った。その為の準備と計画を始めた。1つは体力面の少しだけの強化と1つは、私に合った遍路方法を考えることであった。従来の歩き続けるの遍路では、体力的・安全面も私に合わなかったのである。そこで、予め宿泊場所を決め、その場所を起点にして遍路の継続性を維持した。即ち、遍路が終った場所から交通機関を利用して宿泊地を往復し、翌日同じ場所から再び遍路をスタートした。このやり方で荷物を軽く歩きやすく、宿での洗たくや疲労回復に役に立った。

この計画立案検討の作業は、私にとってたまらなく楽しい時間であった。



外国人向遍路案内

[遍路のあらまし]

- ①平23年4・5・9月 ①番札所(徳島)～③⑥番(高知)
- ②平24年4・5・6月 ③⑦番(高知)～⑥④番(愛媛)
- ③平25年4・5月 ⑥⑦番(愛媛)～⑧⑧番(香川)～
⑩番(徳島)→高野山奥ノ院(和歌山)

徳島より出発し、徳島に帰り、88ヶ所巡礼と一応の四国一周を達成できた。合計41泊48日で歩いた距離は約1200kmであった。一回の行程は6泊7日とし、安全面を含めて、正規の遍路道に沿った車道を歩いたこともあった。宿泊は全て素泊り、コンビニ等にて買出しで朝・夕食は室でとった。この方が自由に行動できた。

[遍路の思い出]

無事に歩き終えてホッとした。と言うのも、私の遍路を知っている人に、途中ギブアップの報告はできない若干のプレッシャーがあったのである。にもかかわらず、近頃再び遍路の願望がでてきている。次回は、前回の順

打ち遍路(①番→⑧⑧番巡礼)の反対回りの逆打ち遍路(⑧⑧番→①番)したい。ゆっくり参拝したいので、前回以上のバス・列車を利用するつもりである。遍路道は昔から変わっていないが、通過する町並はこの10～20年に大きく変貌したとのこと。バイパスや高速道路の開通で車の流れが変わって昔からの道筋は衰退した所が多かった。人口の減少も加わり致し方がないのだろうか。しかしながら四国の人達の巡礼者に対する温かい応対とお接待の気持はまだまだ健在であった。私も5回、飲み物やお金の接待をうけた。うどん屋さんではお代タダの接待もあった。遍路道には休憩所も設置されていた。歩きながら、何度も感謝し、遍路して本当によかった。

終りに、遍路最終日、高野山からの帰り、大阪駅内で級友・梶野 繁君と待ち合せ、私のささやかな遍路終了を肴に、酒杯を交した事も、よき思い出である。

終り



雨の中「花へんろの町」早坂氏の生家・松山市北条

昭和45年卒同窓会開催（安芸の宮島）

森崎 孝幸（昭45）

先日、同窓会学年理事の中村博君から同窓会誌への投稿を依頼されましたので、幹事から今回の同窓会の様子と近況を含め報告させていただきます。

45年卒同窓会は2年に一度開催地を変えて実施されており、今回は広島にて、日本三景の一つであり世界遺産に登録されている宮島のホテルで平成27年5月23日（土）開催しました。

卒後45年の節目にもあたり、今回の目的を、普段お会いすることのできない同窓生にも出席いただくことに定め、同窓会誌をもとに全員に連絡することに決め49名中、物故者3名、住所不明者2名を除く44名に連絡、南は沖縄の永山さん、北は千葉の有福さん、田部君他25名の出席を頂きました。

残念ながら欠席6名、案内状は届いているが返信無し13名でした。

5月23日（土）当日は夕方より小雨模様となりましたが、機転の利く皆さんはその前に厳島山頂の弥山（535m）から瀬戸内海の景色を堪能していただきました。晴れていれば四国まで見渡せたのに天候が悪く残念でした。

近年では最も多い参加者であったため、ホテルの玄関では藤原君の“あんたは誰じゃったかね”と長崎弁も飛び出し賑やかにスタートしました。近況報告では女性

は、孫の御守りから介護、徐々に自身の病気へと現実味を帯びてきましたが元気な方は薬剤師の仕事の傍ら、ボランティア活動に励んでおられ、其々の場で活躍されている姿が拝見されました。男性では教職1名、開局3名と無謀とも思える調剤薬局を最近開局した藤原君の4名。夏は大阪の量販店薬局で仕事・冬は暖かい沖縄でマンション生活している加嶋君や、外の方も何らかの形で薬剤師として関わっており職務としての有りがたさを痛感した。

宴が進むにつれ学生時代の話題にタイムスリップし、昭和町校舎の跡は？角のうどん屋はまだ有る？薬化学の五郎さんの研究室は夕方からは麻雀の音がしてたよね！三明さんにはお世話になりました。

昭和42、43年は学生運動が真っ盛りで、休講の時間に討論・先輩のアジテーションが始まったり、ノンポリだった私達男性のグループは全学連・革マルどうでもよかった。試験の前になると女性の下宿へノートを借りに行ったこと、手島さん小林さん川村さん本当にお世話になりました、と本多君が言っておりました。私も含め出席の男性が今日有ります事はノート、実験で大変お世話になった女性の皆さんのご援助であり重ねてお礼申し上げます。話は尽きることなくそのまま幹事部屋の二次会で盛り上がりました。



平成27年5月23日 於 ホテル（宮島）



翌日は天候も回復し真夏の暑さ。玄関で宮島以外を観光される皆さんとお別れし、観光協会の方にお申し渡しの2時間の予定で厳島神社周辺の名所旧跡を楽しんだ。海に浮かぶ神社に合わせ日程を組んだが、午前9時には5分の潮であり満潮にはやや早かった。シンボルでもある朱に彩られた大鳥居を背景に記念撮影しその大きさに驚いた。この大鳥居は樟の自然木で自立しており現在の鳥居は明治8年建立されたもので台風の波、風にも動かないそうだ。建築技術の高さを思い知らされる。

神社は各神殿が回廊で結ばれており、朱で彩られた建造は満潮時には海面に映し出されとても美しいコントラストを映し出すそうだが、当日は少し時間がかかりそうであった。本殿から突き出た能舞台があり、左右一対の狛犬が配置されている。向かって右の大きく口を開けた阿形の像が雄、左の口を閉じ角がある吽形の獅子がメス。花嫁が角隠しをするのは、その角を隠す為とか。皆さん既にもう角が出てしまっていないませんか？もっとはっきり雄雌が判別できる方法はないのと手島さん。

ン・・・股間を見れば(私)

ア・・・ (手島さん)

神社を出て五重塔、千畳閣へと歩を進める。千畳閣は豊国神社として豊臣秀吉が建立した巨大な建造物であり秀吉の死によって完成を見ていないが棟、瓦のあちこちに金が施されており権威をうかがい知れる。

もう2時間近く歩いたであろうか、そのころになると私の脊柱管狭窄症による右足が痺れてき、敷石にヨッコイショと腰を下ろし回復を待つ。皆さんお年の割には元気で当分医療費の軽減に役立ちそうです。

観光協会の斎藤さんの微細にわたる説明で2時間コースを終わり、ホテルロビーで解散し連絡船15分で宮島口へ到着。

昼食お持ち帰りに、うえの屋のあなご飯をお勧めし帰りの飛行機、新幹線の中で楽しんでいただいた。

次回開催は2年後、大分で本多君が幹事で開催する事となり古希の祝いと重ね多数の参加を期待しております。

今回残念だったことは大学及びクラス以外の同窓の皆さんとの話題が無く、繋がりが同窓会報位でしか無い事であった。総会に合わせた開催も必要であろう。報告をまとめている傍ら、小林君から金田君の訃報が飛び込んできた。合掌

今回の出席者

川村(猪野)千鶴子、田中(岡田)光代、西光(小川)ひろみ、鈴木(久木山)あや子、小林(瀬川)和子、芦田(妹尾)マサ子、和泉(辻)千賀子、有福(中野)俊子、永山(仲松)恵美子、星見(中村)令子、飯田(縄田)信代、山下(広瀬)圭子、手島(前田)多賀子、轟木(松嶋)幸子、大滝(角井)修子、和泉 喬、加嶋憲一、小林 茂、高木俊郎、田中重雄、田部昭夫、中村 博、藤原邦雄、本多健二、森崎孝幸

43年入学/47年卒業クラス会 in 神戸

山田 有一(昭47)

長崎でのクラス会(平成25年10月)で次回は神戸で行う事が決まり、お世話をさせて頂く事になりました。阪神には多くの同窓生が住んでいますが比較的連絡の取りやすい岡本美佐緒、小池正博、末澤克己、武 孝子、松田徹生さんにも幹事をお願いして6名で準備を進めてきましたが、平成27年3月14日にポートピアホテルで開催する事ができました。

今年から殆どの同窓生が65歳になり子育て・仕事に一段落がついた事もあり、また幹事をはじめ森さんにもクラス会参加の声かけをして頂いた結果、39名の方に参加して頂き心より感謝しています。

会は小池さんの司会で岡本さんの開会の挨拶から始ま

り、物故者への黙祷(10名)、松田さんの乾杯の音頭へと続き、しばらく懇談した後に、過去のクラス会と学生時代の写真をスライドで映しました。若かりし頃にタイムスリップし、当時を思い起こし十分に懐かしんで頂く事ができたのではないかと思います。また松田さんより卒業時の抱負を書いた寄せ書きの説明があり大いに盛り上がりました。

その後に西垣さんよりインドネシアの生薬「ノニ」にかける熱意、四維さんからは3人のお子さんの成長と薬剤師になって本当によかったとのお話がありました。末澤さんからは管理薬剤師としての現状報告と人との「つながり」が最高の健康法というお話があり、アツと言う

間に楽しい2時間が過ぎてしまいました。この後全員が30階のスカイラウンジに席を移しました。神戸の夜景を見ながらの楽しい懇談は尽きる事はありませんでした。

翌日は23名の方が市内観光に参加され、「人と防災未来センター」、「神戸甲南 武庫の郷」、「白鶴酒造資料館」、「六甲ガーデンテラス」を訪れました。防災センターでは1.17シアターで阪神・淡路大震災の地震破壊のすさまじさを大型映像と音響で体験して頂き、その後大震災ホールで「人とまち」をテーマに復興に至るまでのドラマを見る事ができました。今後の防災のお役に立てればと思っています。白鶴資料館では灘の伝統の酒づくりに触れる事ができ、またお酒の試飲も楽しむ事ができまし

た。六甲山頂は気温も低く霧もかかって視界が悪く眺望を楽しむ事はできませんでしたが、鉢巻展望台からかすかに神戸市街地を見る事ができました。

学園紛争が続いた時代でしたが、多感な青春時代を共に過ごした同窓生は、幾ら時が経とうとも大切な仲間です。お互いに過去～現在の時間を共有する事で、これからの人生の励みになるのではないかと思います。

次回は大間さん小寺さんを中心に九州でクラス会が開催される予定ですが、今回都合のつかなかった方にも是非参加して頂き元気に旧交をあたためる事ができればと思っています。



平成27年3月14日 於 ポートピアホテル

昭和48年卒業生の卒後42年目の同期会を東京で開催して

渡部 クリ子（昭48）

二年前に卒後40年同期会を長崎で開いたとき、次の同期会は横浜近辺で開こうと話合いました。

そこで、横浜や東京在住の同期生で相談をして、10月17日（土）に東京都港区白金のイタリアンレストラン「NORI」で開催する計画を立てました。白金は交通の便がよい品川駅にも近く、会場近くの高層マンションで夜景を楽しみながら二次会を開けたからです。

当日は生憎の雨模様でしたが、幸い夕方にはその雨もあがり、8名の男性と17名の女性が参加しました。

レストランは本来50名程度で貸し切りにするところ、店側のご好意で私たちだけで貸し切り状態にしてもらえました。

一人ひとりの近況報告を聞きながら、美味しい料理を楽しむ、前期高齢者へ突入した私たちも、瞬時にして青春の学生時代へ立ち戻りました——但し、頭は白く、皺など外観に年期の入った青春でしたけれど…

近況報告では、まだ現役で働いている人や孫の世話を楽しんでいる人、スポーツやバレエに励んでいる人など、皆さんが輝いた人生を過ごされているようすが紹介されました。

私たちの同期で、既に鬼籍に入られた方が数名いらっしゃることは寂しい限りですが、次回もまた、元気に会えるように健康に留意して頑張ろうと一次会はお開きになりました。

その後、ほとんどの参加者が、会場から歩いて数分のところにある二次会の会場に移動し、前面に東京タワーが輝く東京の夜景を楽しみながら、ワインやビールでさらに旧交を温めました。

翌日の日曜日は希望者9名で、はとバス東京見物半日ツアーへ出掛けました。絶好の好天にも恵まれ、浅草や隅田川を巡り、さらに親睦を深め、楽しい時間を過ごすことが出来たと思います。

ほとんどの人が九州や山口等、遠方から出席なさった方だったので、お楽しみ戴けたらと思います。

次回は二年後に広島周辺で開催しようという話になりましたが、広島近辺からの出席者がひとりだけでしたので、持ち帰って検討して戴くことになりました。どうか

前向きのご連絡がありますよう期待して居ります。

幹事：小松、多田、平田、渡部

参加者（敬称略）

相川康博、井手 清、埋金（坂本）年代、大津（鶴原）富美子、織田公光、金子伸夫、金子（藤村）洋子、川上 徹、菅藤（金築）美枝、北野（林谷）千枝、桐木英雄、小松（田中）則江、高比良（横田）康子、多田（山本）和子、津村（山路）恵子、中川（山上）智子、仲子（林）くみ子、中山（山縣）都、肥後（森）啓子、平田（許斐）美恵子、藤川（鈴木）登志子、森重徹洋、山内茂樹、山口（力武）美好、渡部（木原）クリ子



平成27年10月17日 於 イタリアンレストラン「NORI」

2015年 長薬（昭和）49年卒及び45年入学同窓会 - 有馬温泉 -

同窓会世話人（昭49）

平成27年長薬（昭和）49年卒及び45年入学同窓会は、平成27年10月11日（日）神戸是有馬温泉【地方職員共済組合 有馬保養所「瑞宝園」】で開催されました。

本同窓会は、平成9年から2年毎に開催されております。初回の岡山から長崎、萩、別府、松山、大阪、佐世保、太宰府、五島と西日本の各地を巡って、当地の者が世話人となり、開催しており、丁度10回目を神戸有馬温

泉での開催の運びとなりました。

当日は、秋晴れのもと、残念ながらドタキャンが1名ありましたが、29名の参加者を得て、結構賑やかに騒がしく宴会から二次会へとスムーズに流れていきました。

昭和49年卒及び45年入学の対象者は、現在では77名ですが、4名の方が居所不明となっており、73名中の29名は、約40%の出席率であり、まあまあといったところ

だったのでしょうか。

2年毎の開催で、もう顔見知りが多く、女性16名、男性13名とバランスよく、やはり歳はとっても女性が多いのは華やかさがあっていいものです。

また、4組の夫婦連れがあったのも、遠方から来られるのに小旅行も兼ねた、奥さん孝行で良かったようです。4組のうち2組の奥さまは同窓生ではなかったのですが、一緒に宴会にも出席していただきました。

瑞宝園は、有馬温泉の中でも少しはずれた所にあり、タクシーではワンメーターの距離なのですが、当日は3連休の中日とあって、観光客（ここもやはり外国人が目立つ）が多く、狭い道は混み合い、タクシーもつかまらない状況でした。有馬温泉駅から徒歩で、20分ほどかかるのですが、ずっと登り道のため、どっと疲れた方もおられたようです。

参加者は、63歳から65歳前後になっており、そろそろ年金生活に突入の方もいらっしゃるようですが、元気な姿をお互いに確認できて、昔話に花を咲かせ、孫の話に相槌を打ち、何と言っても久しぶりの再会を喜ぶひと時となったようでした。

夕刻6時半から始まった宴会は、あまりアルコールが進まなかったようでしたが、和やかな、多少五月蠅い雰囲気の中で経過しました。くじ引きによる記念品も気に入ってもらいました。また、宴の終盤、次の開催地を決めるのも、東京や地元長崎での開催の意見もありまし

たが、これまでまだ開催していない佐賀ですんなり決定され、世話人も決まって一安心でした。2年後嬉野温泉あたりでできたら“うれしーの”という声もあがり、開催日も2017.10.15（日）と決めちゃいました。すでにもう待ち遠しい感となっていました。

宴会場は9時までとなっており、皆追い出されました。

2次会は4階の隅っこ世話人の部屋で行われました。何と27名程が参加し、狭いところで膝を突き合わせ、焼酎、ビール、ワイン等皆結構グイグイ、チビチビやって、大いに情報交換をやっていました。

翌日は、朝食後、昨夜の記念集合写真が皆に配布され、絶好の秋日和の中、六甲ロープウェイに乗って六甲山越えで帰る方、他の観光地へ向かわれる方もおられたようです。

また、2年後に元気な顔を拝見できることを祈って報告いたします。

参加者

阿部のり子、池田知子、石橋 眞、石橋典子、今村明久、上ノ段 茂、大平健一、緒方千恵子、堅田博行、亀山清廣+奥方、清岡陽子、小林節子、佐々岡玉枝、白木知栄子、立花剛一、立花好恵、歳森三千代、中村 均、灘 博敏、西田多津子、野中雅幸、橋本次男+奥方、林 直子、原田克己、馬場満輝、馬場美弥子、松井裕美、村上京子、山田秀美



平成27年長業49年卒及び45年入学同窓会 平成27年10月11日 於 有馬温泉 瑞宝園

50年卒のみなさま！ 9月17日は屋形船ですよ～

梶村 博（昭50）

昭和50年卒の同窓会は、毎回開催地を変えて2年ごとに行うことを決まりとしています。同窓会と観光を兼ねた実にgood ideaな方法です。前回は長崎大学の同窓会であることはものともせず札幌であったのですが、このような遊び心への賛同と、現地で孤軍奮闘した石田さんの集客力もあって実に27名の参加をみました。そしてその札幌で決定されたのが2016年9月17日の東京での開催です。

さて、その東京での同窓会の会場ですが、私としては学士会館が半沢直樹などのロケで有名で、東京らしくてと密かに思っていたのですが、田邊さんの屋形船ではどうだろうかとの一言で吹き飛んでしまいました。最も東京そして江戸を感じさせる遊びが屋形船だからです。

そのような経緯で、10月10日に屋形船の下見会を敢行しました。実は、下見会はほぼ口実で、卒後40年目の東京での邂逅を楽しもうというのが一大テーマの集まりでした。出

席者7名の現況は写真のとおりです。さて、7名はそれぞれ誰だか分かるでしょうか。

船は地下鉄大江戸線の勝どき駅付近の乗船場を6時に出航し、隅田川を遡上し、幾つもの橋をくぐって浅草へ。美女四名はスカイツリーをバックに写真を撮り、スタイルの良さを競っていました。その後、船は反転し、隅田川河口まで下り、レインボーブリッジ、お台場、フジテレビの夜景を楽しみました。波はほとんどなく、見上げる夜景が綺麗なあつという間の2時間30分でした。お料理は天ぷら主体の和食で、飲み放題。よく食べ、よく飲み、よくしゃべり、よく笑ったひとときでした。名残惜しく、勝どき橋、築地、歌舞伎座、銀座を経由して有楽町まで晴海通りを歩いて帰りました。

2016年9月17日には50人乗りの屋形船を貸切りたいと張り切っています。皆様、よろしくご参加のほどお願いします。



昭和52年卒同窓会報告 - 世界遺産登録で盛り上がる長崎での再会 -

北村 良二（昭52）

前回の福岡開催時に、幹事代表の末安さんの方から「5年毎の開催だと1回欠席すると次回の出席は10年後になってしまうので、還暦を迎える次回からは3年毎に開催しましょう」とのご提案が有り、前回から3年目の平成27年10月11日（日）に、ホテルニュー長崎13階『桃林』にて開催しました。

秋の行楽シーズンにも関わらず、遠くは関東や四国など

全国各地から過去最高の34名の出席となりました。初参加の方も4名（旧姓：入山さん、旧姓：木戸さん、松竹君、松村君）が出席され、38年前にタイムスリップしたような再会となりました。

今回は参加者全員に2012年に世界新3大夜景に選ばれたパンフ、2015年に軍艦島などが世界遺産に登録されたパンフ、2016年に教会群の登録を目指しているパンフの3種

類を受付で配布し、観光客で溢れる長崎の最近の話題を提供しました。

定刻となり山崎さん筆の横断幕の前で、集合写真を撮影後、高田君による乾杯の発声を皮切りに、長崎屈指の中華料理を楽しみながら、学生時代の思い出話や学生時代には話題にも上らなかった孫の話、健康の話などで一気に盛り上がりました。

会の途中には、初参加や久しぶりの参加者が近況報告をしたり、箸休めの余興タイムでは各テーブルでポケ封じの問題を解きながら記憶力を競い合うテーブル対抗戦で楽しんだり、忘れかけた薬学部校歌を全員で合唱したりで、大いに盛り上がりました。また、前回の開催から旧姓：鶴崎美弥子さんと旧姓：山口智子さんのお二人がお亡くなりになり、1分間の黙とうで故人の冥福を祈りました。

1次会終了時点では、次回開催地は3年後の福岡でと決まっていたのですが、2次会での盛り上がりの中で、次

回は2年後の広島で開催することに決めました。会は4次会まで続きましたが、次回も元気で再会する事を約束して、第5回の同窓会を盛会裏に終えることが出来ました。次回開催の折は、更に多くの方の参加を期待したいと思います。

- 第1回（卒後20年）1997年10月18日（土）
長崎「京華園」 (25名)
- 第2回（卒後25年）2002年9月15日（日）
福岡「稚加栄」 (33名)
- 第3回（卒後30年）2007年11月10日（土）
長崎「ハウステンボス」 (30名)
- 第4回（卒後35年）2012年10月7日（日）
福岡「ホテルセントラーザ博多」 (29名)
- 第5回（卒後38年）2015年10月11日（日）
長崎「ホテルニュー長崎」 (34名)



昭和52年卒業生の第5回同窓会 平成27年10月11日 於 ホテルニュー長崎

後列左より：北村良二、川口純市、高田充隆、光富吉朗、安河内一弘、青野拓郎、末安正典、松竹忠海、松野康二、芝原一憲、渡辺（久家）真由美
中列左より：池崎隆司、大塚（田口）由美子、藤原（本多）由生子、済川妙子、前田（田口）幸子、田中（入山）恭子、岩下（福田）淑子、
山崎多佳子、小田原（藤井）廣子、山口（藤井）美奈子、小嶺（大島）裕子、小林（湯浅）恵美子、今永（岩田）典子
前列左より：末安（佐久間）智子、坂田（諸橋）富美子、奥島（長谷川）昭子、奥井（井上）洋子、井上（片山）圭子、松村 博、
長井（山下）千恵美、田中（北村）知子、佐藤（橋田）恵子、井上（木戸）澄江 (敬称略)

生物工学研究室にまつわる祝賀会

伊藤 潔（昭59）

梅雨の候、晴天に恵まれた2015年6月28日（日）、大阪市都島区の太閤園にて長薬の製造工学・生物工学同門会生47名の皆様にお集まりいただき、鶴 大典先生米寿祝

賀会・片岡洋行先生学長就任祝賀会・芳本忠先生古稀祝賀会の3つの祝賀会を同時に開催しました。

2015年度は、鶴先生、芳本先生のお祝いをする時期だ

なあと考えていたところ、同門の片岡洋行先生が就実大学学長に就任されるとの大ニュースを知り、駆け足の準備で6月中の祝賀会開催にこぎつけました。お祝い事が重なる年となり、「千載一遇の好機です。恩師を囲んでの楽しい会にしたいと存じますので、皆様お誘い合わせの上、ご来会くださいますようお願い申し上げます。」とご案内した結果は、大盛会の楽しい会となりました。片岡学長には、ご多忙の中、ご参加いただき、大変丁寧なご挨拶もいただきました。ありがとうございました。

遠くは鹿児島や東京からも参加いただき、機知に富んだ鶴先生の一言は健在で、定評のある芳本先生のスライド写真解説も聞きながら、昔話を花を咲かせました。写真の中には、先生方の元気なお姿に加え、「んっ、誰だっけ?」という方もいらっしゃるかも知れません（失礼を

お許してください)。ご覧いただき、学生時代に思いをはせていただければ幸いです。

神戸で開催された薬学会の会場で、就実大学の先生から偶然に片岡先生のニュースを聞かなかつたら、この祝賀会はなかったかもしれません。片岡先生には本当に感謝いたします。記念の置物だけでは感謝し尽くせませんが、しばらくはご多忙を極めることになると思いますが、同門会一同、心よりご健勝、ご活躍をお祈りしています。

また、参加いただいた方だけでなく、都合により参加はかなわずとも、趣旨に賛同いただきました全ての方に感謝いたします。2016年の薬学会は横浜での開催です。また、どこかの研究室の祝賀会が生まれるかも知れませんね。期待してみてもいいでしょうか？



平成27年6月28日 於 太閤園

昭和61年度入学生同窓会報告

山本 稔 (平2)

去る平成27年9月20日、長崎市銅座の山海珍味「呑」に於いて、昭和61年度入学生の卒後25年の同窓会を開催しました。シルバーウィーク5連休中の多忙中にも関わらず、29名の方の参加がありました。直前に関東・東北豪雨災害が発生し、つくばの川口夫妻の参加が危ぶま

れましたが、特に被害もなかったようで、無事参加できて安堵しました。18時から会が始まりましたが、まずは集合写真の撮影です。井手さん、中村さんも滑り込みセーフで無事集合写真を撮影できました。その後、司会を務めた私の5年前の欠席の懺悔が始まり、続いて参加

者中最年長の井手指月さんに乾杯の音頭をとってもらいました。その後はそれぞれの席で、最近の近況を語り合ったり、学生時代の昔話に花が咲いていました。私の周りでは、集まった男性陣の間で、変わり果てた頭髪の話題になりました。めっきり白髪が増え、老け込んだ私や下田君を余所に、小山君の黒々とした若々しい髪が目立っていたので尋ねてみると、全く染めていないとの事。この歳で白髪が一本もないとは恐れ入りました。遣伝子を少し分けて欲しいくらいでした。エンターテイナー山内君は当然参加でした。久しぶりの再開でしたが、やはり山さんは何年経っても変わらず山さんだという感じでした。最後は一番遠方からの参加だった川口晋紀君の万歳三唱の後、再度集合写真をとってお開きとなりました。その後、20名を越す方が二次会、三次会に繰り出し、大いに盛り上がりました。といっても私はというと、三次会では幹事の役目も忘れて冒頭から完全に沈没してしまい、帰り際に「帰るぞ!」と起こされる始末で、全く会話に参加できず、何しに行ったのかという感じでした。後で聞くと約3名の方で、四次会まであったとか。何はともあれ、久しぶりに旧友と非常に楽しいひとときを過ごせました。前夜の疲れもあり、ぐっすり寝ていた翌朝、山内君からのモーニングコールで目が覚めました。世界遺産となった明治日本の産業革命遺産の一つである「ジャイアント・カンチレバークレーン」はどこから見えるのかとの事で、「松が枝埠頭あたりからよく見えるよ。」と教えてら、良い写真が撮れたと喜んでいました。

同窓会終了後、「反省会をやらないとね。」と言っていたところ、松下君が来崎するとの話もあり、鍵本君、富田君の音頭で反省会も行われ、20名弱の参加者で、しっかりと反省が行われました。反省会には遠方の東京から森川（濱田）さんや福岡から宇賀さんの参加もあ

り、京都の下田君に至っては同窓会、反省会とフル参加で、さすがのパワーで大いに盛り上げてくれました。同窓会、反省会の参加者の皆さん、本当にお疲れ様でした。

今回の同窓会、反省会の開催にあたっては、秋吉君、鍵本君、富田君に幹事としてご協力いただき、本当にありがとうございました。特に富田君には参加者への連絡、写真撮影など、大変な仕事をいつも快くやってもらって、本当に感謝しております。また、同窓会終了後、数名の参加者の方から幹事への労いの連絡もいただき、本当にありがとうございました。この紙面をお借りして、御礼申し上げます。

今回、卒後25年の同窓会という事で、我々の卒業からもう四半世紀もの月日が流れたのかと感慨深く思うとともに、学生時代の仲間同士で久しぶりに集い、楽しく語り合えて、幹事として本当に嬉しく思いました。また、今回、本当は参加したかったのだけど、ご家庭の用事と重なり、止む無く参加を断念された方々には大変申し訳なかったですが、次回は是非参加していただければと思います。5年後の2020年に卒後30年の同窓会を企画したいと思っております。東京オリンピックが開催される年でもあり、どんな同窓会となるか、今からとても楽しみです。昭和61年度入学生の皆さん、その時までお元気で。5年後、元気にお会いしましょう!

同窓会参加者（敬称略）

荒木、樫本（岡田）、岡本、鍵本、川口夫妻（山本）、城戸、常岡（道祖尾）、門馬（中尾）、中村、鳩貝（藤原）、山内（増田）、武田（峰）、秋吉夫妻（堀）+諒祐くん、井手、小山、百岳（神浦）、西村（小林）、下田、前田（田浦）、富田、松田（富永）、川口（永測）、阿部（日迫）、山内、森下（山田）、山本



平成27年9月20日 於 山海珍味「香」

2015年九州薬学連合大会結果

宮城 翼 (学部3年)

今年の大会は福岡で行われました。どの競技も日々努力してきた成果をぶつけあい、白熱した試合となっていました。

野球部



6チーム中2位

1回戦 長崎 8-1 崇城 (7回コールド)
準決勝 長崎 7-5 第一薬科
決勝 長崎 5-17 熊本

硬式テニス



男子 リーグ

1回戦 長崎 2-5 九保
2回戦 長崎 4-3 第一薬科

男子 トーナメント

1回戦 長崎 0-4 崇城
三決戦 長崎 4-2 熊本

女子 リーグ

1回戦 長崎 ●-○ 第一薬科
2回戦 長崎 1-6 福岡

サッカー



第6位

バレーボール

1回戦 長崎 0-2 福岡
敗者戦 長崎 ●-○ 第一薬科

バスケットボール

男子リーグ

長崎 ●-○ 第一薬科
長崎 ●-○ 九保
長崎 ●-○ 熊本
長崎 ●-○ 長崎国際

グビロが丘下の薬専防空壕跡地の慰霊碑周辺の清掃

加藤 直也（学部3年）

平成27年8月2日（日）の午前中を用いて、29名の学部学生・大学院生および17名の卒業生・役員・事務局の方々、さらには川上 茂先生（平7）のお子様にも協力していただき、計47名で15回目となるグビロが丘下の薬専防空壕跡地の慰霊碑周辺の清掃活動を行いました。強い日差しが照りそそぐ中、草むしり、木くずや落ち葉拾い等の作業を行い、1時間ほど汗を流しきれにした後、記念撮影を行い、慰霊碑にむけてご線香をあげ、戦争の犠牲になられた先輩方を追悼しました。最後に、グビロが丘にある原爆犠牲者慰霊碑の参拝も行いました。

去年は、残念ながら雨で中止になってしまい、私自身2回目の参加となりました。学年が上がるにつれて戦争について考える機会が減っていく中、戦後70年という節目の年に、このような活動に参加し慰霊碑を参拝することで、戦時中どのような思いで当時の方々は生活していたのだろう、と考えさせられるとともに、今このときを気を張り詰めることなく淡々と暮らしていける日常の有難さが身に染みる機会となりました。

原爆犠牲者慰霊碑の参拝の後は、近く中華料理屋で参加された先輩方とともに会食をとりました。グビロが



丘の歴史を学び、また普段お話をすることができないような先輩方から貴重なお話を頂戴することができ、非常に有意義な時間となりました。

最後になりましたが、ご多忙の中、時間を作って参加して下さった皆様、朝早くから暑い中、本当にお疲れ様でした。この活動がこれからも20回、30回と続いていくことを心から願っています。



旧小野島校舎跡記念碑清掃

松尾 洋介 (平15)

2015年11月15日(日)に、諫早市小野島町に建つ旧小野島校舎跡記念碑周辺の清掃を行いました。前日まで雨天がつづき天候が心配されましたが、当日は朝から晴れ渡り、無事に清掃作業を行うことができました。

記念碑をきれいに拭きあげ、周辺の雑草やゴミを取り除きました。小一時間ほどで清掃作業を終えた後、参加者全員で記念撮影を行い、例年と同様に諫早市内の鰻屋

で食事会を行いました。食事会では、先輩方の近況などを伺うことができました。

最後に、今年の参加者のお名前は次の通りです。山中会長ご夫妻、峰(昭26)、七種(昭56)、藤島(平3)、椛島(平4)、川上(平7)、岸川(平10)、松尾(平15)、武次(事務局)です。お忙しい中、参加して頂きありがとうございました。



平成27年度白衣贈呈式

宮元 敬天 (平20)

去る10月1日、薬学部1年生への第3回目の白衣贈呈式が執り行われました。

長薬同窓会役員より副会長の中嶋幹郎先生を始め、椛島先生、岸川先生、宮元が出席いたしました。

授与式では黒田薬学部長のご挨拶の後、中嶋先生より学生へ白衣を贈呈するようになった経緯を説明いた

き、白衣を着用して長薬同窓生の一員であることを認識してほしいとの願いを伝えられました。

その後、薬学科および薬科学科の代表1名ずつに柏葉のロゴ入りの白衣が授与されました。今までに授与された学生のように学生実習や実務実習の場で着用していただくことを願っております。



クラブOB会だより

平成27年度野球部OB会と親睦試合記

OB会

加藤 直也 (学部3年)

平成27年11月14日の土曜日、宝来軒別館にて毎年恒例の野球部OB会が開催されました。今年の参加者は、OB36名と現役部員18名でした。

会を開催するに際しまして、野球部同窓会長の西脇金一郎先生(昭33)からご挨拶をいただき、武永敬明先生(昭54)の乾杯のご発声でOB会がスタートしました。中華料理を口に運び、ビールや紹興酒を飲みながら、OBの方々から、当時の野球部のお話、昔の研究室のお話、就職のお話など様々な今後に活かされる貴重なお話をさせていただきます。

会の中盤にかけまして、前チームの九葉連の結果報告・現役部員の自己紹介・OBの方々の自己紹介が行われました。結果報告では、野球部の健闘をたたえて大きな拍手が送られ、自己紹介では、会場が笑いに包まれる場面も見られ、終始和やかなムードで会は進んでいきました。その後、西脇先生から準硬式ボールを寄贈していただき、それに応える形で、現役部員から、巻頭言と校歌

が力強く歌われました。

会の終盤では、大山 要先生(平12)から翌日に行われるOB戦のオーダーが発表されました。そのメンバーはピッチャー：澤勢瑞城(平15)、キャッチャー：古賀健太郎(平20)、ファースト：森田知樹(平26)、セカンド：鎌水大介(平26)、サード：迎 武紘(平24)、ショート：高橋毅行(平26)、レフト：下岡巧弥(平27)、センター：山村康雄(平26)、ライト：中谷治規(学6)、DH：武永敬明(昭54)(敬称略)でした。

最後に、澤勢瑞城さん(平15)に万歳三唱で会を締めくくっていただきました。お忙しい中、ご参加していただいた上に部費まで寄付して下さったOBの皆様方、本当にありがとうございました。OBの皆様方のお力添えに感謝の意を表するとともに、より良い方向に野球部を発展させ、伝統を守り続けていきたいと思っております。来年も引き続き、たくさんのご参加をよろしくお祈いします。



親睦試合記

菅 晃久 (学部3年)

前年は雨で中止となり、また前日の土曜日にも、雨に見舞われていたため、今年も親睦試合をできるのか不安視されていたが、その心配をよそに当日は素晴らしい野球日和となり、無事行うことができた。

今年はOBチームが先行、現役チームが後攻で、試合がスタートした。初回、現役チームは3人でしっかり押さえると、その裏、1番がフォアボールで出塁し、続く2番廣瀬(学3)の左中間へのタイムリーツーベースで幸先よく先制する。その後も打線が続き、この回3点を奪った。2回、OBチームも反撃に出る。1アウトから5番迎さん(平24)がライト前ヒットで出塁。その後2アウト2、3塁となり、8番山村(平26)さんがライトへのタイムリーヒットで1点を奪う。しかしこの回に2塁ランナーもかえるが、ライトの好返球によってタッチアウト、追加点は許さない。現役チームは3回にも6番岩元(学1)、7番増田(学1)の2本の2塁打などで、3点を追加し、6-1とリードを広げる。4回から代わったピッチャーの高橋さん(平26)が3回1失点の好投をし、OBの意地を見せる。その間に6回OBチームは、2番堀さん(学5)のライトへのタイムリーツーベースなどで2点を加え、点差を詰めてくる。追加点がほしい現役チームは7回、本塁打で3点を加え、大きくリードした。8回に両チームとも1点を追加し、迎えた最終回、2アウトランナー無しとなり、OBチームも、ここで力尽きたかに思われた。しかし、8番武永さん

(昭54)のサード内野安打を皮切りに、9番渡邊さん(学4)のセカンド内野安打と続き、ここで迎えるのは1番森井さん(学4)、気持ちでもっていった打球はセンターオーバーのタイムリースリーベースとなり2点を巻き返した。その後も攻撃が続きそうな流れではあったが、ここで、現役チームのキャプテンの加藤(学3)が気迫あふれるピッチングで最後はセカンドゴロに打ち取り、11対6で現役チームの勝利で試合を終えた。

今年の親睦試合は打撃戦でしたが、その中でも、古賀さん(平20)の4番酒井(学2)の痛烈なサードゴロをさばくファインプレーや、鎌水さん(平26)の難しいフライをとった場面など要所、要所で光るプレーが飛び出し、大いに盛り上がり、引き締まった試合となりました。

試合後は恒例の食事会が行われました。先輩方と、先ほど終わった試合の話など、様々な話で盛り上がり、楽しい時間を過ごすことができました。

今回出席して下さったOBの方々、本当にありがとうございました。また、残念ながら、ご都合により今回参加されなかったOBの方々、現役側にとって、OB方との交流は、毎回大変貴重な経験でよい刺激となっております。ご都合がつかましたら是非ご参加ください。現役一同心よりお待ちしております。この毎年恒例の親睦試合が今後もますます栄えていくことを願っております。



平成27年度薬学バスケットボール部OB戦

浦山 泰洋 (学部3年)

5月23日(土)に薬学バスケットボールOB対現役生による交流戦が行われました。今年で5回目となりました。遠方から来ていただいた先輩方、ありがとうございます。

試合が始まると、先輩方は信じられないきれでプレイし、驚かされました。現役生は、「切り返しが速すぎる…」「あのタイミングのシュートは止められないな」と眩し、先輩方のプレイに目を奪われていました。

交流戦の後には居酒屋で現役生とOBを交えての親睦

会が行われました。社会人生活の話や、学生生活のアドバイスなど、有意義な話を聞かせていただきました。

薬学バスケット部OB戦は5回目とまだまだ歴史は浅いですが、今後ともつながりを大切にして、発展していければと思います。今回は現役生の参加が少なかったですが、より多くの現役生とOBとの交流を深めていけたらと思います。今回は残念ながら参加できなかった先輩方もご都合がつかましたら、次回のOB戦に是非ご参加ください。現役生一同心よりお待ちしております。



平成27年5月23日 於 三菱重工総合体育館

第31回薬学硬式庭球部OB会

吉崎 涼平 (平27)

今年は10月31日、11月1日の2日間で第31回となる長崎大学薬学硬式庭球部OB会を開催いたしました。

初日はまず松山町にある長崎市営庭球場にてOB対現役生の対抗戦を行いました。対抗戦には当部活の創設者である山本先輩(院昭55)をはじめ、松原先輩(昭58)、顧問の西田先生、テニス部発足時にテニスのご指導を頂いた百武さん、梅北先輩(平11)、石橋先輩(平11)、瀧先輩(平21)、木原先輩(平25)、小山先輩(平25)、佐藤先輩(平25)といった先輩方がお忙しい中参加してくださいました。例年この対抗戦はOBが現役生に大きく勝ち越しているのですが、今年は稀に見る大接戦で勝利数もほぼ互角という結果になりました。これもすべて現役生の日頃の練習の賜物であり、現役生の大きな躍進には参加されたOBの方々も非常に喜んでおられました。この調子で来年はさらにいい試合ができるように、現役生にはより一層練習に励んでもらいたいと思います。現役生は試合後に対戦したOBの

方々から助言を頂き、またOBも現役生との試合で大きな刺激を受けるなど、参加した人全員が非常に有意義な時間を過ごすことができました。

対抗戦後には宝来軒別館にて懇親会を行いました。参加者はOB、現役生合わせて60人以上にのほり大盛会となりました。おいしい料理やお酒が振る舞われる中、1年生の自己紹介や新旧幹部のあいさつ、OBの方々のお話と進み、現役生にとっては普段聞くことのできないようなお仕事の話なども聞くことができた貴重な時間となりました。続く二次会、三次会にもたくさんの方が参加してください、楽しい時間を過ごしました。

長崎大学薬学硬式庭球部OB会も今年で31回を迎え、これからもさらに発展していくことと思われます。今年は残念ながら出席できなかった先輩方もご都合がつかましたら、来年のOB会に是非ご参加下さい。現役一同、心よりお待ち致しております。



庶務報告

岸川 直哉 (平10)

○定例理事会

平成27年4月12日(日)13時より薬学部第2講義室で開催されました。山中國暉同窓会長(昭43)の挨拶の後、平成26年度事業報告および決算報告、平成27年度事業計画案および予算案が討議されました。

続いて、北九州支部の増田和久支部長(昭50)よりステーションホテル小倉(福岡県北九州市)で開催される平成27年度長薬同窓会定期総会について説明がありました。

また、黒田直敬薬学部長より長薬創立125周年記念事業について説明が行われました。

○平成27年度長薬同窓会定期総会

平成27年6月13日(土)18時より、福岡県北九州市のステーションホテル小倉にて開催されました。総会では、山中会長による開会挨拶の後、物故者への黙祷が行われました。その後、芥野岑男氏(昭46)を議長に選出して議事に入り、平成26年度事業報告および決算報告、平成27年度事業計画案および予算案ならびに会則変更等についての討議が行われ、承認を得ました。また、長薬創立125周年記念事業に関する説明が黒田直敬薬学部長よりなされました。引き続き、来年度の総会(福岡市)について、福岡支部浦陵会中島敏樹幹事長(昭57)より説明がありました。総会終了後、日本在宅薬学会理事を務められている手嶋無限先生(院平15)より記念講演を行っていただき、在宅医療の新展開についてご自身の経験をもとに分かりやすくご講演いただきました。

懇親会では増田和久北九州支部長(昭50)よりご挨拶があり、続いてご来賓として黒田直敬薬学部長よりご祝

辞をいただきました。乾杯のご挨拶を長崎大学名誉教授でもいらっしゃる古川 淳先生(昭25)よりいただき懇親会が始まりました。卒業年度ごとに集まったテーブルでは皆さんが大学時代を懐かしむとともにお互いの近況報告などをされ楽しい時間が過ぎていきました。また、塩飽健而様(昭16)より焼酎の「なかむら」と日本酒の「瀬祭」の差し入れがあり、皆様がおいしそうに召し上がっておいりました。さらに、門司港名物「バナナのたたき売り」が余興として行われ、多くの方がバナナを購入され大きな荷物とともに帰られていました。

最後に薬学6年制に移行して2代目の卒業生である葛島美季さん(平25)が万歳三唱を行い、懇親会は締めくくられました。

○支部長交代

福岡支部浦陵会 新支部長 池田光政氏(昭57)

平成27年9月6日(日) 支部総会で決定

以上の届け出がありました。

○長薬同窓会関連施設の維持・管理

平成27年8月2日(日)に、ぐびろが丘原爆慰霊碑周辺の清掃を同窓会本部役員・同窓生・事務局および現役大学院生・学生で行ないました。また、11月15日(日)に小野島校舎跡地記念碑周辺の清掃を同窓会本部役員・同窓生・事務局で行ないました。

○寄贈

本間宏保様(昭23)より「小野島会だより第3号」の寄贈がありました。

桶谷 巖様(昭16)より寄付金2万円の寄贈がありました。

長薬同窓会 支部長会議

日 時：平成27年11月7日 15時50分より

場 所：ホテルANAクラウンラバーヒル

出席者：山中同窓会長はじめ本部役員、及び各支部長（参加者リスト参照）

報告：副会長 七種 均（昭56）

長崎大学薬学部125周年記念式典のあと、支部長会議を開催し各支部の現状と本部に対する要望について意見交換した。

各支部からの意見の主なものは以下の通り

①各支部総会開催と活動への補助を！

支部によっては会費をとって活動している所もあるが、総会会場を借りる費用や総会開催通知の発送費用など現在の本部補助のみでは厳しくなっているという意見が多く聞かれた。

それに対し、「本部会誌と一緒に送付したらいかか？」という提案もあったが、「本部会誌の発送時期と連動するとは限らない。」等の意見が聞かれた。

会長からは、「総会通知等の発送費用等については新たな補助を考えている。」旨の提案があった。

②支部活動及び総会への会員の結集について（特に若い会員の結集に向けて）

「新卒の会員がどこに就職しているのか、大学から情報提供してもらえないか」との意見があったが、「大学側でも事務でない情報は持ってない。同窓会としても本人申告が原則なので、むしろクラブ活動のつながりが早いかもしれない。」等の回答があった。

また、「参加者が少ないと支部総会の開催時期や曜日・時間設定について配慮が足りなかったのかと考えてしまう。」という意見もあり、「女性の場合は家族の夕食の支度をする時間さえ考慮して支部総会を開催してもらえれば、参加が増えるかもしれない。」との提案もあった。

各支部よりその他の意見として以下のような発言も

あった。

- ・会員数は多いが、支部総会への参加が少ない。
- ・特に若い会員の参加が少ない。
- ・今年から平成卒の会員を事務局として活動をはじめた。
- ・平成卒の会員の総会参加費については、参加を促すため値下げしている。
- ・新卒の会員については、総会へは「招待」として会費を取らないことにしているが、それを知らない者もいて、周知の方法を検討している。
- ・職場のつながりを利用したり、キーマンを探して声かけをして結集させている。
- ・本部のホームページに各支部の総会開催日時等の情報をアップしてほしい。

参加支部

長崎支部	濱田 哲也（昭54）
長崎県北支部	相川 康博（昭48）
長崎県央支部	田中 秀二（昭46）
佐賀支部	藤戸 博（院昭52）
福岡支部	池田 光政（昭57）
北九州支部	増田 和久（昭50）
大分支部	石橋 眞（昭49）
熊本支部	山本喜一郎（院昭55）
山口支部	今村 明久（昭46）
広島支部	青野 拓郎（昭52）
近畿支部	梶野 繁（昭42）
関東支部	原 正朝（昭60）



長薬同窓会会則変更および学年理事の選出について

1. 今年度定期総会において、以下のとおり会則が変更になりました。

長薬同窓会会則 新旧対照表

新	旧
<p>第四条</p> <p>3. 特別会員 長崎大学薬学部並びにその前身の<u>教員</u>であったもの及び現に<u>教員</u>であるもの</p> <p>第七条</p> <p>2. <u>学年理事（学部卒）は正会員中より原則として卒業年度別の選挙により各学年から一名，昭和46年卒以降は各クラスから一名計二名を決定し，学年理事（大学院）は大学院修了後五年毎に一名を選挙により決定する。</u></p>	<p>第四条</p> <p>3. 特別会員 長崎大学薬学部並びにその前身の<u>教官</u>であったもの及び現に<u>教官</u>であるもの</p> <p>第七条</p> <p>2. 学年理事は正会員中より原則として学部卒業及び大学院修了年度別の選挙により各一名を決定する。</p>

2. 会則変更に伴い、学年理事の選出方法が変更になります。

2年毎の役員改選時に定期総会の案内に同封の出欠はがきにより、推薦者1名をご記入の上、返送ください。

・昭和45年までに卒業の方は同学年の方から1名をご記入ください。

昭和46年以降の卒業（平成22、23年卒除く）からは各学年の理事が2名となります。

・昭和46年から平成元年までに卒業の方は各学科から1名をご記入ください。

・平成2年から平成21年までに卒業の方は同学年の同クラスから1名をご記入ください。

・平成22年卒業以降は、各学科から1名をご記入ください。

記名数が多い方に学年理事をお願いいたします。

次回の役員改選は来年度（平成28年度）です。

物 故 者 氏 名

前会報（54号）に発表のあとなくなった方、及び死亡が判明した方（敬称略）

氏 名	卒年次	死亡年月日	氏 名	卒年次	死亡年月日	氏 名	卒年次	死亡年月日
菊 谷 元 資	昭15	平27.1.6	野 田 幸 雄	昭22	平27.6.22	富 田 達 也	昭33	平27.3.27
石 津 一 貫	昭16.3	平27.4.3	佐 伯 克 己	昭24	平26.1.31	山 本 剛	昭35	平27.9.-
津 村 久寿男	昭16.12	平17.-	酒 匂 保	昭24	平26.12.16	金 田 康 治	昭45	平27.9.19
今 村 博	昭18	平26.9.12	中 島 修	昭24	平26.2.19	坂本（小田原）悦子	昭48	平27.9.-
小 寺 健次郎	昭20	平27.10.9	青 木 昭 男	昭25	平26.5.28	岩永（鶴崎）美弥子	昭52	平26.10.4
天 野 久 高	昭22	平26.10.12	青 木 博	昭25	平26.3.6	寺原（山口）智子	昭52	平26.-
古 賀 敏 郎	昭22	平27.4.10	山 口 哲 郎	昭28	平27.1.23	柴田（井口）美和子	昭54	平26.8.21
羽 崎 和 敏	昭22	平25.11.28	馬 詰（太田）久子	昭30	平27.7.8	林 田 まゆみ	昭57	平27.5.11
坂 本 訓 啓	昭22	平26.10.-	川 本 毅	昭30	平27.7.11	計		26名

学 内 記 事

(海外渡航)

種別	職名	氏名	渡航先国	期間	渡航目的
出張	教授	植田 弘師	ドイツ	26.12.8～26.12.13	IASP Council Meetingに出席, 情報収集
出張	教授	植田 弘師	カナダ	27.5.3～27.5.11	McGill Universityにてセミナー及び情報収集をおこなう
出張	教授	植田 弘師	ギリシャ	27.5.13～27.5.22	5th International Congress on Neuropathic Painに出席, 発表, 情報収集およびアテネ大学にてセミナーと研究打ち合わせを行なう
出張	教授	植田 弘師	ハンガリー	27.7.12～27.7.15	Bioactive Lipid in Cancer, Inflammation and Related Diseases 14th International Conference 出席, 発表
出張	准教授	齋藤 義紀	中国	27.7.22～27.8.11	研究材料であるキク科Ligularia属とその近縁植物, 薬用植物の採集をおこなう
出張	教授	植田 弘師	カナダ・アメリカ	27.8.21～27.8.30	カナダ・バンフにて行われるLysophospholipids and related mediators from bench to clinicに出席, 招待講演をおこなう。カリフォルニア大サンフランシスコ校にて研究打ち合わせをおこなう
出張	助教	永井 潤	カナダ	27.8.22～27.8.29	FASEB SCIENCE RESEARCH CONFERENCEにて発表, 情報収集
出張	助教	春山 貴弘	イギリス	27.8.23～27.8.28	International Conference on Influenzaにて発表, 情報収集
出張	教授	田中 隆	フランス	27.9.14～27.9.20	第8回国際アントシアニンワークショップにて成果発表を行い, 座長を務める
出張	准教授	石原 淳	中国	27.9.23～27.9.26	第6回国際触媒会議2015年會において成果発表および情報収集
出張	教授	塚元 和弘	アメリカ	27.10.4～27.10.10	ASHG Annual Meeting2015に参加, 発表
出張	教授	植田 弘師	アメリカ	27.10.17～27.10.21	Neuroscience 2015に出席, 招待講演をおこなう
出張	准教授	大庭 誠	オーストラリア	27.10.24～27.10.31	11th Australian Peptide Conferenceにて成果発表, 情報収集

(異 動)

異動年月日	異動内容	職	氏名	所属研究室	備 考
H26.12.1	辞職	准教授	江 頭 かの子	実践薬学	
H27.3.15	辞職	助教	内 田 仁 司	創薬薬理学	新潟大学へ
H27.3.31	辞職	助教	松 永 隼 人	創薬薬理学	大分大学へ
H27.3.31	辞職	講師	大 脇 裕 一	実践薬学	第一薬科大学へ
H27.3.31	辞職	助教	村 松 渉		任期満了による
H27.4.1	配置換	准教授	大 山 要	実践薬学	薬品分析化学から配置換
H27.7.1	採用	准教授	出 口 雄 一	創薬薬理学	京都大学大学院医学研究科から
H27.7.1	採用	助教	モトウエイ イドウ オラボン	創薬薬理学	医歯薬学総合研究科 分子創薬科学講座 技能補佐員から
H27.7.1	辞職	准教授	田 中 義 正	創薬薬理学	辞職後は, 医歯薬学総合研究科 感染免疫学講座 准教授(正規雇用)として採用
H27.7.1	配置換	助教	水 田 賢 志	創薬薬理学	医歯薬学総合研究科 感染免疫学講座へ
H27.9.19	辞職	助教	モトウエイ イドウ オラボン	創薬薬理学	任期満了による ナイジェリアへ帰国
H27.11.16	採用	准教授	手 嶋 無 限	実践薬学	多職種協働による在宅がん医療・緩和ケアを担う専門人材育成拠点准教授

(学位授与)

学位記番号	学位の種類	氏名	学位授与年月日	学位記番号	学位の種類	氏名	学位授与年月日
甲第732号	博士(薬学)	カ 賈 ナン 楠	平成26年12月3日	甲第805号	博士(薬科学)	ハオ チェン Hao Qian	平成27年9月18日
甲第748号	博士(薬学)	イマザト タカヒロ 今里 孝宏	平成27年3月4日	甲第806号	博士(薬科学)	エジュピ バロン Ejuji Valon	平成27年9月18日
甲第752号	博士(薬科学)	フナガミ ユキ 淵上 由貴	平成27年3月20日				

長 薬 同 窓 会 役 員

(平成27年 4月)

本部役員

会 長	山 中 國 暉	昭和43年	あおかた調剤薬局
副 会 長	田 原 務	昭和51年	うれり薬局
〃	佐々木 均	昭和53年	医学部教授 長大病院薬剤部長
〃	七 種 均	昭和56年	十善会病院薬剤部
〃	中 嶋 幹 郎	昭和57年	薬学部教授
〃	藤 島 さとみ	平成3年	つばさ薬局
監 査	原 田 均	昭和51年	道ノ尾病院
庶務幹事	岸 川 直 哉	平成10年	薬学部准教授
会計幹事	椛 島 力	平成4年	薬学部准教授
編集幹事	川 上 茂	平成7年	薬学部教授
幹 事	松 尾 洋 介	平成15年	薬学部助教
〃	稲 嶺 達 夫	平成18年	薬学部助教
〃	宮 元 敬 天	平成20年	薬学部助教
顧 問	伊豫屋 偉 夫	昭和41年	

学年理事

昭和20年	池 田 保 彦	昭和45年	中 村 博 子	平成5年	森 本 仁
昭和22年	田 崎 和 之	昭和46年	大 西 裕 子	平成6年	岩 永 真 理
昭和23年	中 原 潜	昭和47年	松 本 逸 郎	平成7年	南 口 義 人
昭和24年	麻 生 忠 介	昭和48年	井 手 清 輝	平成8年	山 口 拓 亨
昭和25年	塚 崎 邦 彦	昭和49年	馬 場 満 輝	平成9年	平 良 文 直
昭和26年	峰 崎 唯 信	昭和50年	北 村 美 江	平成10年	岸 川 哉 美
昭和28年	吉 田 一 美	昭和51年	原 田 均 司	平成11年	水 野 隼 人
昭和29年	野見山 季 治	昭和52年	池 崎 隆 司	平成12年	松 永 幸 規
昭和30年	帆 士 辰 雄	昭和53年	町 田 毅 也	平成13年	兒 玉 幸 宏
昭和31年	桑 山 晶 子	昭和54年	濱 田 哲 史	平成14年	小 西 周 平
昭和32年	長 田 雅 子	昭和55年	大 田 佳 史	平成15年	原 田 田 響
昭和33年	西 脇 金 一 郎	昭和56年	山 口 正 広	平成16年	牟 田 豪 潤
昭和34年	松 尾 幸 子	昭和57年	高 良 真 也	平成17年	柴 田 井 雄
昭和35年	木 下 敏 夫	昭和58年	宮 崎 幹 博	平成18年	永 井 雄 仁
昭和36年	武 田 成 子	昭和59年	中 村 忠 博	平成19年	細 井 翔 一
昭和37年	吉 田 研 次	昭和60年	塩 田 英 雄	平成20年	筒 井 拓 也
昭和38年	岡 邦 彦	昭和61年	本 多 隆 隆	平成21年	桑 田 佳 子
昭和39年	鈴 木 隆 治	昭和62年	森 川 隆 光	平成22年	永 田 本 義
昭和40年	松 村 祐 子	昭和63年	神 山 朝 光	平成23年	中 本 鍋 早
昭和41年	伊豫屋 偉 夫	平成1年	白 川 奈 奈 子	平成24年	川 朝 長 玲
昭和42年	井 上 一 顕	平成2年	山 本 稔 恵	平成25年	朝 門 善 法
昭和43年	井 上 志 郎	平成3年	前 田 理 恵	平成26年	
昭和44年	中 村 和 子	平成4年	椛 島 力		

院 1～院 5 (昭和42年～昭和46年) 富 永 義 則 (昭和46年)
 院 6～院 10 (昭和47年～昭和51年) 高 橋 正 克 (昭和49年)
 院 11～院 15 (昭和52年～昭和56年) 大 木 豊 (昭和54年)
 院 16～院 20 (昭和57年～昭和61年) 中 嶋 幹 郎 (昭和59年)
 院 21～院 25 (昭和62年～平成3年) 本 多 雅 幸 (平成1年)
 院 26～院 30 (平成4年～平成8年) 富 田 守 (平成4年)
 院 31～院 35 (平成9年～平成13年) 原 田 祐 樹 (平成9年)
 院 36～院 43 (平成14年～平成18年) 大 山 要 (平成14年)
 院 44～院 53 (平成19年～平成23年) 竹 尾 公 秀 (平成19年)
 院 54～院 (平成24年～) 門 脇 彩 香 (平成24年)

長薬同窓会支部一覧

(平成27年11月)

長崎支部ぐびろ会	会 長	濱 田 哲 也 (昭 54)
長 崎 県 北 支 部	支部長	相 川 康 博 (昭 48)
島 原 支 部	支部長	
長 崎 県 央 支 部	支部長	田 中 秀 二 (昭 46)
佐 賀 支 部 若 楠 会	会 長	藤 戸 博 (院昭52)
福 岡 支 部 浦 陵 会	会 長	池 田 光 政 (昭 57)
北 九 州 支 部	支部長	増 田 和 久 (昭 50)
大 分 支 部	支部長	石 橋 眞 (昭 49)
宮 崎 支 部 日 向 浦 陵 会	会 長	田 中 重 雄 (昭 45)
鹿 児 島 支 部	支部長	森 昭 雄 (昭 28)
熊 本 支 部	支部長	山 本 喜 一 郎 (院昭55)
山 口 支 部 抜 天 会	会 長	今 村 明 久 (昭 46)
広 島 支 部	支部長	青 野 拓 郎 (昭 52)
岡 山 支 部	支部長	歳 森 三 千 代 (昭 49)
山 陰 支 部	支部長	橋 本 覚 (昭 52)
四 国 支 部	支部長	井 上 智 喜 (昭 54)
近 畿 支 部	支部長	梶 野 繁 (昭 42)
東 海 支 部	支部長	
関 東 支 部	支部長	原 正 朝 (昭 60)
沖 縄 支 部	支部長	
北 海 道 支 部	支部長	

平成26年度長薬同窓会収支決算報告

平成27年3月31日

収 入 の 部		支 出 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
前 年 度 繰 越 金	7,358,964	通 信 費	1,088,927
会 費 (延2133名)	6,399,000	総会案内・会報送送料	644,140
入 会 金 等	1,168,000	振替加入者負担金	217,820
預 金 利 息	1,304	事務連絡郵便料	178,787
雑 収 入	13,600	電 報 電 話 料	48,180
		印 刷 費	1,019,893
		会 報 他 印 刷 費	1,019,893
		会 合 費	60,850
		理事会その他会合費	60,850
		旅 費	422,740
		会 長 出 張 費	87,180
		役 員 そ の 他 出 張 費	335,560
		補 助 費	1,892,148
		総会および支部会補助金	580,000
		そ の 他 補 助 金	1,312,148
		維 持 管 理 費	66,119
		原 爆 慰 霊 碑	26,234
		小 野 島 記 念 碑	39,885
		事 務 費	208,176
		事 務 用 品 費	40,206
		電 算 機 費 用	167,970
		人 件 費	2,620,765
		雇 員 給 料 手 当	1,030,000
		雇 員 交 通 費	33,600
		臨 時 雇 員 手 当	1,557,165
		雑 費	694,915
		会 員 見 舞 弔 慰 金	116,524
		そ の 他	578,391
		次 年 度 繰 越 金	6,866,335
合 計	14,940,868	合 計	14,940,868

会計幹事、椛島力氏立会のもと、平成26年度に関する帳簿及び預金通帳を詳細に監査した結果、記帳及び計算は妥当かつ正確なものであり、上記の通り相違ありません。

平成27年4月27日

監 査

原 田 均 

平成27年度長薬同窓会予算

平成27年4月1日

収 入 の 部		支 出 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
前 年 度 繰 越 金	6,866,335	通 信 費	1,400,000
会 費 (延2300名)	6,900,000	総会案内・会報送料	700,000
入会金等(6年制40名, 4年制42名)	1,144,000	振替加入者負担金	300,000
預 金 利 息	1,300	事務連絡郵便料	300,000
		電報電話料	100,000
		印 刷 費	1,400,000
		会報他印刷費	1,400,000
		会 合 費	80,000
		理事会その他会合費	80,000
		旅 費	1,200,000
		会 長 出 張 費	400,000
		役員その他出張費	800,000
		補 助 費	1,500,000
		総会および支部会補助金	700,000
		そ の 他 補 助 金	800,000
		維 持 管 理 費	240,000
		原 爆 慰 霊 碑	200,000
		小 野 島 記 念 碑	40,000
		事 務 費	350,000
		事 務 用 品 費	50,000
		電 算 機 費 用	300,000
		人 件 費	3,064,000
		雇 員 給 料 手 当	1,030,000
		雇 員 交 通 費	34,000
		臨 時 雇 員 手 当	2,000,000
		雑 費	650,000
		会 員 見 舞 弔 慰 金	200,000
		そ の 他	450,000
		予 備 費	5,027,635
合 計	14,911,635	合 計	14,911,635

同窓会事務局だより

今年は長崎大学薬学部創立125周年に当たり、記念式典、祝賀会等開催され、薬学部歴史を感じることができました。記念事業のためにご協力いただきました皆様に厚くお礼申し上げます。同窓会事務局として、この場に関わった事はとても光栄でした。

長崎では7月に明治日本の産業革命遺産で、軍艦島をはじめ長崎造船所関連施設等が世界文化遺産に登録されました。また、原爆被爆70年の節目の年を迎えました。

歴史ある薬学部同窓会の今後の発展、存続のためにも、何卒、会費の納入にご協力をお願いいたします。

なお、来年は会員名簿の発行も予定しております。ご住所、勤務先等変更がありましたら、下記の事務局へご連絡をお願いいたします。また、卒業されて間もない方で、ご住所等連絡いただいていない方もいらっしゃいます。お知らせをお待ちしております。

武次 郁子 記

編集後記

長薬同窓会会員の皆様にはお元気で活躍のこととお喜びを申し上げます。平成27年版同窓会会報をお届けいたします。今年は、長薬創立125周年にあたり、下村 脩名誉博士夫妻にご参加いただき、「長崎大学薬学部創立125周年記念式典」を長崎市内ANAクラウンプラザホテル長崎グラバーヒルで挙行了しました。記念式典では、内外関係者約200名が出席して節目を祝いました。式典当日の午前中には長崎大学教育学部附属小学校内に新たに建立した長崎大学薬学部昭和町校舎記念碑の除幕式を執り行いました。本長薬創立125周年の感動を一連の記念事業へ参加できなかった会員の皆様と分かち合うため、今回の同窓会会報では、山中会長の配慮もあり、当日の様子をカラー写真で掲載しました。写真を通じて、母校125周年を一緒にお祝いできれば幸いです。今後も、会員の皆様には、同窓会活動への更なるご支援を賜りますようお願い申し上げます。最後になりましたが、会員の皆様の一層のご健勝とご活躍を心より祈念いたします。川上 茂 記

平成27年12月18日印刷
平成27年12月25日発行

長薬同窓会報

編集 川上 茂
発行 長薬同窓会

(郵便番号852-8131)

所在地 長崎市文教町1-14 長崎大学薬学部内
TEL 095-844-6383 (直通)
095-819-2471 (ダイヤルイン)
FAX 095-844-6383
メールアドレス jimukyoku@choyaku.jp

(郵便番号870-0913)

印刷所 大分市松原町2丁目1-6

小野高速印刷株式会社
TEL 0120-58-3002



長崎大学薬学部 長薬同窓会